

2025 年度 研究所事業報告書

研究所名	人文科学研究所
------	---------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所の実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどを行い、できるだけわかりやすく記述してください。

なお、2025 年度に採択を受けた研究所重点研究プログラムの詳細な実績報告は、プロジェクト毎に書式 B に記述のうえ提出してください。

人文科学研究所は 2025 年度において3つの重点プロジェクトと、6つの研究助成プログラムを組織し、人文科学・社会科学の深化と刷新を試みた。各重点プロジェクトは、それぞれ(1)「近代日本における「近代の危機」認識に関する研究」、(2)「現代における間文化現象学の新展開」、(3)「グローバル化と地域の多様性(diversity)」をテーマに研究を行っている。(1)「近代日本における「近代の危機」認識に関する研究」においては、当研究所内で 50 年余りの歴史を有する近代日本思想史研究会が中心となり、中期的テーマを設定し研究成果を蓄積している。(2)「現代における間文化現象学の新展開」においては、現代社会と人間を解明するための哲学、倫理学、文学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角を模索し、人間科学に関する学際的な研究を積極的に蓄積している。(3)「グローバル化と地域の多様性(diversity)」では、東アジア地域に焦点を絞り、各地域の特徴や動態を明確にするべく、「東アジアの福祉レジームと市民社会」を考察すると同時に、グローバルな移動(mobilities)によって特徴づけられる世界が有するに至っている課題と可能性を浮彫にするべく、「グローバルな移動(mobilities)の中の世界」を考察している。そうして、これら両側面を有機的に結びつけながら、総合的・豊穡な研究を実現しつつある。

研究成果の発信と社会貢献

上記の長期目標をふまえて 2025 年度においては、以下のような研究成果の発信と社会貢献を具体的にに行った。

まず(1)「近代日本における「近代の危機」認識に関する研究」(代表:小関素明)では、本年度は6本の論文と1本の研究ノート、1本の書評よりなる特集号「近代日本の帝国化と国内秩序」(『立命館大学人文科学研究所紀要』144)を刊行した。また、3回の研究会の開催や、若手研究者の資料収集など活発な研究活動を展開した。さらに、研究代表者が外部および学内の出版助成を得て、著書(単著)「大東亜戦争」幻想化と「戦争責任」の精神史(人文書院)を刊行した。

(2)「現代における間文化現象学の新展開」(代表:加國尚志)では、2025 年度は複数の海外研究者を招聘した国際会議として「デリダと日本-東アジアの哲学」、「A Tribute to Phenomenology」、「20 世紀哲学における唯物論的弁証法の展望——フランスと日本、そして両者の媒介としてのチャン・デュク・タオ」の3つを開催し、東アジアを中心とする国際的研究ネットワークの構築を積極的に進めることができた。また、海外研究者を招聘した講演会を4件開催することで、さらなる海外交流も進めた。さらに、若手研究者が主導する企画を2件開催し、若手研究者の育成につながった。

(3)「グローバル化と地域の多様性(diversity)」(代表:遠藤英樹)では、それぞれ著名な海外研究者を招聘して、2025 年 9 月に「再帰的な社会において『モビリティ・ジャスティス』を再考する」と題する研究カンファレンス、12 月に「モビリティーズ研究——新たな社会理論の生成をめざして」と題する研究カンファレンス、2026 年 3 月に「ツーリズム・モビリティーズ」をテーマとして、ATLAS Critical Tourism Studies Asia Pacific In-Between Conference 2026: Tourism and Mobilities という国際学会を主催した。

若手研究者の支援

人文科学研究所では本年度も、読書会、研究会・ワークショップにおける発表、調査・フィールドワークなど、多様な機会をとらえて、若手研究者の育成をはかってきた。具体的には若手研究者自身がワークショップをコーディネートできる機会を提供したり、若手研究者育成を目的に国内外の最新業績を批判的に検討する読書会を開催したりした。さらに博士後期課程に在学する大学院生に対しても、積極的に研究会・ワークショップにおけるオーガナイズや発表の機会を提供するとともに、現地調査・フィールドワークを実施した。その具体的な成果として、本研究所から育った若手研究者が大学教員の職を得たり、他研究機関の研究員に採用されたり、民間財団の研究助成に採択されたりしている。

以上、2025 年度の研究活動においても所期の目的を順当に推進できたと言える。

Ⅱ. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2026 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長	亀井 大輔	文学部	教授
運営委員	遠藤 英樹	文学部	教授
	川村 仁子	国際関係学部	教授
	市井 吉興	国際関係学部	教授
	小関 素明	産業社会学部	教授
	越智 萌	文学部	准教授
	加國 尚志	国際関係学部	教授
	加藤 雅俊	文学部	教授
	神田 孝治	産業社会学部	教授
	本田 稔	文学部	教授
	山本 理佳	文学部	教授
	鈴木崇志	文学部	准教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	大西琢朗	文学部	准教授
	林 芳紀	文学部	教授
	長澤 麻子	文学部	教授
	加藤 政洋	文学部	教授
	永守 伸年	文学部	准教授
	小野 真由美	文学部	准教授
	森田 耕平	文学部	特任助教
	北西 諒介	文学部	特任助教
	ウェルズ恵子	文学部	特任教授
	花崎育代	文学部	教授
	鎮目 真人	産業社会学部	教授
	松田 亮三	産業社会学部	教授
	筒井 淳也	産業社会学部	教授
	江口 友朗	産業社会学部	教授
	金澤 悠介	産業社会学部	教授
	櫻井 純理	産業社会学部	教授
	住田翔子	産業社会学部	准教授
	日暮 雅夫	産業社会学部	特任教授
	漆原良	産業社会学部	教授
	石崎 祥之	経営学部	教授
	羽谷 沙織	国際教育推進機構	准教授
	駒見 一善	国際教育推進機構	准教授

		石原 悠子	グローバル教養学部	准教授
		神島 裕子	総合心理学部	教授
		美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授
		石田 雅芳	食マネジメント学部	教授
		高田 剛司	食マネジメント学部	教授
		永井 隼人	経営管理研究科	准教授
		スコット コガ ブ ラウズ	国際関係学部	教授
		kim viktoriya	国際関係学部	准教授
		北村理依子	国際関係学部	助教
		田鍬 美紀	国際平和ミュージアム	学芸員
		出口雅久	法学部	教授
		田中悠美子	法学部	准教授
		松井信之	アジア・日本研究機構	准教授
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	下村 晃平	衣笠研究機構	専門研究員
		角田 療	アジア日本研究センター	専門研究員
		鈴木 裕貴	衣笠研究機構	研究員
		木多悠介	衣笠研究機構	専門研究員
		有村 直輝	衣笠総合研究機構	専門研究員
		柳川 耕平	衣笠総合研究機構	専門研究員
		Gadjeva Nadejda	衣笠総合研究機構	専門研究員
	② リサーチアシスタ ント	田丸 幹	国際関係研究科	博士課程後期課 程
		Jonali SARMA	国際関係研究科	博士課程後期課 程
		若杉 直人	文学研究科	博士課程後期課 程(NEXT 学生フ ェロー)
		堀内 智吉	文学研究科	博士課程後期課 程
	③ 大学院生	印牧 真明	文学研究科	博士課程後期課 程
		王 子豪	文学研究科	博士課程後期課 程
		塩野仁志	社会学研究科	博士課程後期課 程
		松原大介	文学研究科	博士課程後期課 程
		佐々木梓	文学研究科	博士課程後期課 程
		鷺尾 渉	文学研究科	博士課程後期課 程
		阿部 生	文学研究科	博士課程前期課 程
		市原 遼人	文学研究科	博士課程前期課 程
		井上 大夢	文学研究科	博士課程前期課 程

	榎並 拓登	文学研究科	博士課程前期課程
	田代 優都	文学研究科	博士課程前期課程
	谷山 翔馬	文学研究科	博士課程前期課程
	麦谷 雄飛	文学研究科	博士課程前期課程
	山崎 康平	文学研究科	博士課程前期課程
	山本 理子	文学研究科	博士課程前期課程
	和田 周大	文学研究科	博士課程前期課程
	HU Jingfeng	文学研究科	博士課程前期課程
	LIU Yiting	文学研究科	博士課程前期課程
	徐 之宸	文学研究科	博士課程前期課程
	ZHOU Ruoyan	文学研究科	博士課程前期課程
	朱 逸軒	文学研究科	博士課程前期課程
	大西 陵誠	文学研究科	博士課程前期課程
	大宮 太陽	文学研究科	博士課程前期課程
	小寺 菜月	文学研究科	博士課程前期課程
	谷口 葉菜	文学研究科	博士課程前期課程
	土田 航大	文学研究科	博士課程前期課程
	間正 百香	文学研究科	博士課程前期課程
	宮原 佑成	文学研究科	博士課程前期課程
	柳本 知宏	文学研究科	博士課程前期課程
	GUO Ang	文学研究科	博士課程前期課程
	PAN Lijun	文学研究科	博士課程前期課程
	XIANG Fangbo	文学研究科	博士課程前期課程
	ZHANG Yiti	文学研究科	博士課程前期課程
	阿部 真歩	文学研究科	博士課程前期課程
	柚山 道明	文学研究科	博士課程前期課程
	横山 楓樹	文学研究科	博士課程前期課程
	福井 優	文学研究科	博士課程後期課程

		吉水 希枝	文学研究科	博士課程後期課程
		中井 悠貴	文学研究科	博士課程後期課程
		中村 凌太郎	文学研究科	博士課程後期課程
		肖 亮	文学研究科	博士課程後期課程
		田中 龍	文学研究科	博士課程後期課程
		松原 一智	文学研究科	博士課程前期課程
		中田駿亮	文学研究科	博士課程前期課程
		砂川 優斗	文学研究科	博士課程前期課程
		西村 紗貴乃	文学研究科	博士課程前期課程
		村上寛一	社会学研究科	博士課程前期課程
		岩崎幹大	法学研究科	博士課程前期課程
		大徳玲奈	法学研究科	博士課程前期課程
		大村咲樹子	法学研究科	博士課程前期課程
		椎橋匠	法学研究科	博士課程前期課程
		Cui Zhicheng	法学研究科	博士課程前期課程
		Li Junyan	法学研究科	博士課程前期課程
	④ 日本学術振興会特別研究員（PD・RPD）	丸山 彩	衣笠総合研究機構	特別研究員（RPD）
		猪原 透	衣笠総合研究機構	特別研究員（RPD）
		小田 麟太郎	衣笠総合研究機構	特別研究員
		佐藤 愛	青山学院大学	特別研究員
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究生、研修生等)		フジモト ヨシタカ	産業社会学部	授業担当講師
		小森 達郎	産業社会学部	授業担当講師
		長尾 伸一	産業社会学部	客員教授
		塩見俊一	産業社会学部	非常勤講師
		平石貴士	産業社会学部	授業担当講師
		梶居 佳広	教養教育センター	非常勤講師
		寺澤 優	文学部	授業担当講師
		吉田 武弘	文学部	授業担当講師
		山口一樹	文学部	授業担当講師
		島田龍	文学部	授業担当講師
		谷 徹	文学部	名誉教授

	青柳 雅文	文学部	非常勤講師
	田邊 正俊	文学部	非常勤講師
	浅沼 光樹	文学部	非常勤講師
	神田 大輔	文学部	非常勤講師
	中谷和義	法学部	名誉教授
	松下洸	国際関係学部	名誉教授
	宮原 優	文学部	非常勤講師
客員協力研究員	藤巻 正己	立命館大学	名誉教授・上席研究員
	龍澤 邦彦	立命館大学	名誉教授・上席研究員
	新井 克弥	関東学院大学	教授
	五十嵐 美華	立命館アジア・日本研究機構	専門研究員
	遠藤 理一	和歌山大学	講師
	小林 柔子 ハッサル	武蔵大学	教授
	堀野 正人	二松學舎大学	教授
	松本 健太郎	獨協大学	教授
	根岸 海馬	立教大学	兼任講師
	薬師寺 浩之	奈良県立大学	准教授
	中井 治郎	文教大学	専任講師
	Doering Timothy Adam	和歌山大学	教授
	韓 準祐	多摩大学	准教授
	二村 洋輔	至学館大学	助教
	谷崎 友紀	京都文教大学	専任講師
	山口 達也	國學院大學	兼任講師
	間中 光	追手門学院大学	専任講師
	須藤 廣	北九州市立大学	名誉教授
	種田 博之	産業医科大学	講師
	橋本 和也	京都文教大学	名誉教授
	安田 慎	高崎経済大学	准教授
	伊藤 嘉高	新潟大学	准教授
	寺田 憲弘	仁愛大学	特任准教授
	中谷 哲弥	奈良県立大学	教授
	原 一樹	京都外国語大学	教授
	栗谷 佳司	立命館大学	衣笠総合研究機構客員研究員
	伊藤 将人	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター	研究員・講師
	Andika Kurniawan	Bakrie University	副学長

	Muhammad Tri		
	北 和樹	富山大学	非常勤講師
	Cidale Federica	the EU-funded European Union in the Volatile Indo-Pacific (EUVIP)	研究員
	額賀 京介	衣笠研究機構	客員協力研究員
	大月 功雄	衣笠研究機構	客員協力研究員
	宮下 祥子	人文科学研究所	客員協力研究員
	西田 彰一	人文科学研究所	客員協力研究員
	長島 修	立命館大学	名誉教授
	Michel DALISSIER	金沢大学	准教授
	ジャンネル、ロマリク	Collège international de philosophie・(「国際哲学コレージュ」)	Directeur de programme
	安井 絢子	関西大学 文学研究科	特別研究員
	伊藤 潤一郎	新潟県立大学	講師
	丸橋 裕	京都大学	非常勤講師
	紀平 知樹	兵庫県立大学	教員
	吉川 孝	甲南大学	教授
	宮崎 裕助	専修大学	教授
	古怒田 望人	工学院大学	非常勤講師
	黒岡 佳柁	中国福建省・福州大学	副教授
	佐々木 拓	金沢大学	教授
	佐藤 勇一	大東文化大学	准教授
	小西 真理子	大阪大学	准教授
	神崎 宣次	南山大学	教授
	西山 雄二	東京都立大学	教授
	川崎 唯史	東北大学病院	特任講師
	川瀬 雅也	神戸女学院	教授
	丹羽 一晃	大阪公立大学	客員研究員
	池田 喬	明治大学	教授
	中澤 栄輔	東京大学	講師
	中澤 瞳	日本大学	准教授
	藤木 篤	芝浦工業大学	准教授
	堀田 義太郎	東京理科大学	准教授
	本郷 均	東京電機大学	特定教授
	門屋 秀一	門屋美学研究所	所長
	廖 欽彬	中国・中山大学哲学系	専任教授
	廣瀬 浩司	筑波大学	教授

	松葉 祥一	同志社大学	嘱託講師
	蛭子 良風	衣笠リサーチオフィス	個人事業主
	穎原 善徳	人文科学研究所	客員協力研究員
	郷原 佳以	東京大学	教授
	長坂 真澄	早稲田大学	教授
	柿木 伸之	西南学院大学	教授
その他の学外者	伊藤 繭子	Australian National University	講師
	伊藤 武	東京大学	教授
	横田 正顕	東北大学	教授
	堀江 孝司	首都大学東京	教授
	李 蓮花	東京経済大学	准教授
	千田 航	釧路公立大学	准教授
	崔 佳榮	駒澤大学	准教授
	加茂 利男	大阪公立大学	名誉教授
	加藤 里沙	金沢学院大学	准教授
	濱田 江里子	立教大学	准教授
	松野 周治	立命館大学	名誉教授
	殷 暁星	広島大学	助教
	佐藤 太久磨	漢陽大学校国際文化大学	助教
	眞杉 侑里	韓国東儀大学校	助教授
	伊故海 貴則	北海学園大学	専任講師
	奈良 勝司	広島大学	教授
	河原 梓水	福岡女子大学	准教授
	藤野 真挙	茨城キリスト教大学	准教授
	路 劍虹	江蘇海洋大学日本語学科	講師
	十河和貴	北海学園大学	准教授
	海野大地	京都府歴史学・歴彩館	専門研究員
	三枝暁子	東京大学	教授
	ホヴァート ダゲン ボリ	ノルウェー北極大学	教授
	川口 博子	早稲田大学	次席研究員
	横山優斗	東北学院大学	講師
	上田滋夢	追手門学院大学	教授
	三谷舜	中京大学	任期制講師
	豊島誠也	広島大学大学院	特任教授
	近江望	小田原短期大学	准教授

	宮下摩維子	東京都立大学法科大学院	准教授
	北村知之	福井県立大学	名誉教授
研究所構成員 計 232 名 (うち学内の若手研究者 計 66 名)			

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。 本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を<u>全て</u>記載してください(2026 年 3 月 31 日時点)。 また、書式 B の研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	遠藤英樹	観光的なものを組み直すー文化・歴史・倫理の観光社会学	共著	2025 年 11 月	公人の友社	須藤廣・松本健太郎 編著	PP. 63～80
2	遠藤英樹	アンソニー・エリオット『アルゴリズム的な親密性ーAI 時代の恋愛、友情、カウンセリング』	共著	2025 年 11 月	明石書店	遠藤英樹・須藤廣・高岡文章・中森弘樹・鍋倉咲希・山本理奈訳	PP.3～9、PP.13～49、PP.269～273
3	神田孝治	万博学/Expo-logy 第 4 号	共著	2025 年 12 月	思文閣出版	万博学研究会編	PP.44-49
4	山本理佳	歴史地理学事典	共著	2025 年 12 月	丸善出版	歴史地理学会	PP.112-113
5	山本理佳	文化遺産（ヘリテージ）との関わり方がつくる未来ー保存/活用の二元論の先にー	共著	2026 年 2 月	ミネルヴァ書房	平井健文・田中英資 編著	PP.19-35
6	羽谷沙織	身体に宿る芸能知:カンボジア古典舞踊ロバム・ボランの継承と変容の民族誌	単著	2026 年 3 月	東信堂	羽谷沙織	PP.1-436
7	羽谷沙織	東南アジアのリバース・ジェンダー・ギャップ ー進む女性の高学歴化は何を意味するのか	単著	2025 年 6 月	明石書店	鴨川明子・服部美奈	PP.61-90
8	羽谷沙織	東南アジアのリバース・ジェンダー・ギャップ ー進む女性の高学歴化は何を意味するのか	単著	2025 年 6 月	明石書店	鴨川明子・服部美奈	PP.111-131
9	市井吉興	グローバル・コモンズとしてのオリンピック	単著	2026 年 3 月	創文企画	新日本スポーツ連盟 附属スポーツ科学研究所 編	PP.229-254 、PP.256-284
10	Yosuke Nimura	Seeds and Needs of Cultural Resources Studies: a Book of the IACRS Opening Conference Thailand	共著	2025 年 5 月	デザインエッグ	一般社団法人文化資源協会ほか	PP.
11	間中光	災害ツーリズムの勃興ーインドネシアから問う観光のレジリエンス	単著	2026 年 2 月	春風社		PP.1～224
12	橋本和也	現代世界を読み解くー観光人類学のススメ	共著	2026 年 2 月	ナカニシヤ出版	市野澤潤平・山下晋司編著	PP.104～108
13	麻生将	内村鑑三の民主主義観とその思想的背景	単著	2026 年 3 月	汲古書院、『自由民権運動期におけるヨーロッパの思想と漢学ー接触、交流、翻訳ー』	町千寿郎・エディ・デュフルモン編	PP. 271～295
14	麻生将	キリスト教の布教	単著	2025 年 12 月	丸善出版、『歴史地理学事典』	歴史地理学会	PP. 300～303
15	鈴木裕貴	落とされなかった原爆	単著	2025 年 11 月	中央公論新社		全 280 頁

16	鎮目真人	新版よくわかる社会福祉	共著	2026 年 2 月	ミネルヴァ書房	山縣文治、岡田忠克、 鵜浦直子（編）	PP. 36～41
17	加藤雅俊	諫早湾干拓紛争	共著	2026 年 2 月	日本評論社	樫澤秀木、宮澤俊昭、 児玉弘（編）	全 408 頁
18	加藤雅俊	財政規律の比較政治経済学	共著	2026 年 2 月	有斐閣	横田正顕（編）	全 316 頁
19	小関素明	『「大東亜戦争」幻想化と 「戦争責任」の精神史	単著	2025 年 12 月	人文書院	無し	PP. 1～352
20	福井優	『立命館大学図書館加藤周 一文庫所蔵書簡目録』	共著	2025 年 12 月	立命館大学衣笠総合研究機 構加藤周一現代思想研究セ ンター	鷲巣力、落合優翼、蛇 子良風、堀内智吉、齋 藤由紀、佐々木梓	
21	島田龍	『世界を撃て！ ピグマリ オニズムで読むマンガレビ ュー』	単著	2026 年 2 月	ピグマリオンブックス（文 学フリーマーケット京都）	無し	
22	宮崎裕助	［インタビュー］ 私たちの 世界には根本的に幽霊がい る——デリダ研究者から見た マーク・フィッシャー	単著	2025 年 12 月	P ヴァイン『ポピュラー文 化がラディカルな思想と出 会うとき——マーク・フィッ シャーとイギリス現代思想 入門』	仲山ひふみ + ele- king 編集部	PP. 126～147
23	宮崎裕助	〔翻訳〕エドワード・ベア リング「デリダ、レヴィ＝ ストロース、『分析手帖』、 あるいは、いかにしてよき 構造主義者となるか」、『分 析手帖——概念と形式 第二 巻』	共著	2026 年 3 月	以文社	佐藤嘉幸・坂本尚志 （監修）	PP. 78～114
24	丹羽一晃	環境思想家としての鶴見和 子	単著	2026 年 2 月	晃洋書房		PP. 1～176
25	丹羽一晃	『共に生きるための国際文 化学：文化と文化をつなぐ 第一歩』第 7 章 環境・災害 と文化 [7-3] 文化と環境思 想【鶴見和子と人間以上の 世界】	共著	2026 年 1 月	昭和堂	日本国際文化学会 （編）	PP. 230～231
26	紀平知樹	リアリティの哲学Ⅱ	共著	2026 年 3 月	中央大学出版部	寺本剛	PP. 295～329
27	郷原佳以	カトリック・マラブーの哲 学——脱構築の可塑性——	共著	2025 年 10 月	読書人	西山雄二（編著）カト リック・マラブー （著）、他	PP. 145～156
28	長坂真澄	『存在の彼方へ』を解読す る：レヴィナス研究の現在	共著	2025 年 12 月	法政大学出版局	佐藤香織、馬場智一 （編）	PP. 126～144
29	柿木伸之	ベンヤミン 破局の後に生 き残る思想	単著	2025 年 12 月	青土社	なし	PP. 1～304
30	吉川孝	合理性と非合理性の哲学	共著	2025 年 12 月	丸善出版	長田怜（編）、吉良貴 之、日笠晴香（著）	PP. 1～47
31	谷 徹	「事象そのものへ——あい だの現象学」、『精神医学と 哲学のあいだ——木村敏が 考えたこと』	共著	2025 年 7 月	創元社	芝伸太郎、野家啓一 （編）	PP. 29～64.
32	谷 徹	「哲学と精神医学が出会う 時——知性と精神」、『臨床 と哲学のあいだ——木村敏 とドイツの現象学・人間学』	共著	2026 年 1 月	晃洋書房	清水健信（編）	PP. 31～62.
33	Takashi Ikeda	Martin Heidegger, <i>The Palgrave Encyclopedia of Theoretical and Philosophical Psychology</i>	共著	2026 年 3 月		Thomas Teo (ed.)	PP. 1～10
34	Romarc Jannel	〔翻訳〕新・共生主義宣言 ——共生主義か、さもなくば 野蛮か——	共著	2026 年 3 月	地球システム・倫理学会	共 生 主 義 者 連 合 （著）、青木三郎（共 訳）	PP. 1～39
35	廖欽彬	越境する知としての西田哲 学	共著	2025 年 12 月	京都大学出版会	秋富克哉・福家崇洋 （編）	PP. 69～85
36	廖欽彬	甦る田辺哲学——田辺元生 誕 140 周年記念論集	共著	2025 年 12 月	法政大学出版局	張政遠、福家崇洋 （編）	PP. 48～167、 320～327

37	廖欽彬	『〈無常〉の変相と未来観——その視界と国際比較』	共著	2026 年 3 月	思文閣出版	荒木浩（編）	PP. 113～137
38	松葉祥一	〔翻訳〕美学における居心地の悪さ	共著	2025 年 7 月	インスクリプト	ジャック・ランシエール（著）、椎名亮輔（共訳）	PP. 1～240
39	鈴木崇志	〔翻訳〕『改造』論文集成：革新の現象学と倫理学	共著	2025 年 5 月	講談社	エトムント・フッサール（著）、植村玄輝、八重樫徹、吉川孝（共著）	PP. 1～395
40	佐藤愛	ヴァーチャルに治癒される人間——サイバー心理学が問う新たな主体	共著	2025 年 4 月	誠信書房	セルジュ・ティスロン、フレデリック・トルド（著）、阿部又一郎、縣由衣子（共訳）	PP. 1～350
41	越智萌	だれが戦争の後片付けをするのか ―戦争後の法と正義	単著	2025 年 6 月	筑摩書房		
42	越智萌	Collecting Cyber Evidence During Ongoing Hybrid Warfare: OSINT and Civilian-led Documentation of Core International Crimes	共編著	2025 年 6 月	Maklu	Artem Galushko, Megumi Ochi	
43	市井吉興	東京 2020 オリンピックにおける「新しさ」の政治性とは？：ポスト 2020 のオリンピック・ポリティクス分析の論点整理	単著	2026 年 3 月	創文企画	新日本スポーツ連盟 附属スポーツ科学研究所 編	PP.229-254
44	市井吉興	ポスト東京 2020 のライフスタイルスポーツ・スケープの描き方—プロソーシャルなライフスタイルスポーツへの「助走」	単著	2026 年 3 月	創文企画	新日本スポーツ連盟 附属スポーツ科学研究所 編	PP.256-284
45	上田滋夢	『スポーツ産業学入門	副編者	2025 年 4 月	晃洋書房	スポーツ産業学会編 著	

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	遠藤英樹	観光社会学の核心（core）的なスタイル	単著	2026 年 2 月	立命館大学人文科学研究所紀要, No.146		PP.5～22	有
2	Hideki ENDO	Living in Algorithmic Hyper-Late Modernity: From Desire for Validation on SNS to the Inauguration of the Trump Administration and to War	単著	2026 年 3 月	Journal of Humanities and AI, 1 (!)		PP.81～86	有
3	Hideki ENDO	Le « transfert de tradition » dans le tourisme: l'identité locale dans un jeu de miroirs	単著	2025 年 12 月	Ebisu Études japonaises, 62		PP.139 ～ 160	
4	羽谷沙織	書評 井上航『音を帯びる』	単著	2026 年 3 月	図書新聞 3728 号	羽谷沙織	PP.4	
5	石田雅芳	「イタリア軒」創始者ピエトロ・ミオラの人物像を再構築する	単著	2025 年 10 月	和食文化学会、和食文化研究, 第 7 号	和食文化学会	PP.3～26	有

6	高田剛司	地域食文化の継承とPBLの深化に資するOn/Off-lineハイブリッド型フィールド実習教育プログラムの実践と評価	共著	2026年3月	立命館高等教育研究, 26号	吉積 巳貴 マリア ヨトヴァ 阿良田 麻里子	PP.17~34	有
7	藤巻正己	世界遺産地区ジョージタウンに「旧日本街」の痕跡を訪ねる旅——フランスルの街歩きから読み解く台湾の眷村における創造的な観光振興の政治社会論的読み解き	単著	2026年2月	立命館大学人文科学研究所紀要, No.146		PP.157~174	有
8	藤巻正己	世界遺産地区ジョージタウンに「旧日本街」の痕跡を訪ねる旅——フランスルの街歩きから読み解く台湾の眷村における創造的な観光振興の政治社会論的読み解き	単著	2026年2月	地理, 71巻2号		PP.3~37	
9	Yosuke Nimura	Invisible People in “Tanah Melayu”: A Critical Analysis of the Exhibition of Orang Asli at Muzium Negara Malaysia	単著	2025年5月	Seeds and Needs of Cultural Resources Studies: a Book of the IACRS Opening Conference Thailand		PP.	有
10	二村洋輔	ヴァナキュラーな存在とその記録と記憶: マレーシアを例に	単著	2025年12月	立命館言語文化研究, 37巻、2号		PP. 67-90	有
11	Yosuke Nimura	Museums , Ideology , and Colonial Legacies: The University of Malaya’s Museum of Asian Art	単著	2026年3月	名城大学人文紀要, 61巻、3号		PP. 13-22	
12	橋本和也	アート観光研究と新たなアクターネットワーク理論: マイクロパーセプションをめぐって	単著	2026年2月	立命館大学人文科学研究所紀要, No.146	有	PP.133~155	
13	種田博之	薬害調査・研究における懊悩と愉悦——薬害エイズの場合	単著	2025年7月	日本保健医療社会学会、保健医療社会学論集、36巻1号	有	PP.35~43	
14	種田博之	「HPV ワクチン勧奨接種の一時停止」にまつわる副反応検討部会の方針転換	単著	2026年2月	立命館大学人文科学研究所紀要, No.146	有	PP.453~478	
15	安田慎	観光文学におけるテキスト空間のレジリエンス——シリア・ダマスカスにおける文学的景観をめぐって	単著	2025年9月	観光学会 観光学評論 13巻2号	有	PP.119~132	
16	麻生将	『聴講五年』の挿絵から見る斎藤宗次郎の空間認識と無教会主義思想	単著	2026年3月	二松学舎大学文学部『二松学舎大学論集』, 第69号		PP. 33~48	無
17	麻生将	20世紀前半の満洲におけるプロテスタント教会の立地と牧師	単著	2025年7月	キリスト教史学会、『キリスト教史学』, 第79集	有	PP. 81~99	有

		の人事異動——『基督教年鑑』を手掛かりに						
18	轟博志	古文獻と古地図に見る、分水界の分岐点認識の差異——白頭大幹を事例に	単著	2025 年 12 月	韓国古地図研究学会, 韓国古地図研究, 17 巻 2 号	有	PP. 153～172	有
19	轟博志	『輿地図書』の山川条における山嶺来脈表記に関する研究	単著	2025 年 6 月	韓国古地図研究学会, 韓国古地図研究, 17 巻 1 号	有	PP. 93～111	有
20	ジュリアン・ゴ(下村晃平訳)	社会学をグローバル化すること、サウスへ転回すること——パースペクティブアル実在論とサウスのスタンディングポイント	単 独 翻 訳	2026 年 3 月	立命館大学人文科学研究所紀要、147 号		5・73	有
21	角田 燎	戦友会会報のメディア特性と組織文化：陸軍借行社と海軍水交会の比較分析	単著	2025 年 12 月	軍事史学、61 巻 3 号		71－90	有
22	角田 燎	(書評)「中原雅人『自衛隊と財界人の戦後史—支援ネットワーク形成とその意味』」	単著	2025 年 8 月	社会経済史学、91 巻 2 号		103－106	なし
23	角田 燎	(書評)『変わりゆく戦没者慰霊』	単著	2025 年 12 月	週刊読書人、2025 年 12 月 17 日号			なし
24	角田 燎	旧軍と自衛隊、断絶と接近の戦後史	単著	2025 年 8 月	中央公論、139 巻 8 号		112－119	なし
25	角田 燎	戦争記憶をつなぐメディア：戦友会会報の特性とアーカイブ化の現状と課題	単著	2025 年 8 月	立命館アジア・日本研究学術年報、6 号		115－119	なし
26	横山楓樹	書 評 : Anton Hemerijck and Manos Matsaganis, Who's Afraid of the Welfare State Now? (Oxford University Press, 2024)	単著	2026 年 3 月	立命館大学人文科学研究所紀要、147 号		121－136	有
27	櫻井純理	生活困窮者自立支援事業における就労／訓練機会の開拓	単著	2025 年 10 月	社会政策、17 巻 2 号		118－129	なし
28	鎮目真人	2025 年年金改革をめぐる非難回避と手柄争い—基礎年金給付の「底上げ」政策めぐって	単著	2026 年 3 月	医療福祉政策研究、9 巻 1 号		79－92	なし
29	加藤雅俊	社会的投資国家における「資本主義と民主主義」の両立	単著	2025 年 8 月	思想、1217 号		28－41	なし
30	加藤雅俊	「活力ある地域社会の形成」に関する調査報告	単著	2026 年 3 月	立命館大学人文科学研究所紀要、147 号		197－276	なし
31	加藤雅俊	「住民参加型の地域社会の活性化」に関する調査報告	単著	2026 年 3 月	立命館大学人文科学研究所紀要、147 号		277－328	なし
32	小関素明	研究ノート・近代天皇制を解説するために	単著	2025 年 12 月	『立命館大学人文科学研究所紀要』144 号	無し	PP.209～232	有
33	福井優	神島二郎の異端論：初期の「正統と異端」共同研究との関わりを中心に	単著	2025 年 12 月	『立命館大学人文科学研究所紀要』144 号	無し	pp. 179-207	有

34	中村凌太郎	外交官及領事官試験 制定後の外務省と外 交官養成プログラム	単著	2025年6月	『年報政治学 2025- I 官僚制 とデモクラシー』、筑摩書房	無し	pp.240-262	有
35	丸山彩	日本軍政期ジャワの 音楽界—宣撫工作の 影に潜んだ音楽—	単著	2025 年 10 月	『『歌の花籠』→『国民の音楽』 —日中〜アジア・太平洋戦争 期の大衆ミュージック』別巻 『人びとと音楽—戦時期「健 全娯楽」のなかで』、金沢文圃 閣	無し	pp.73-92	有
36	梶居佳広	韓国・朝鮮問題をめ ぐる日本の新聞論調 (1970〜72 年)	単著	2025 年 5 月	『立命館経済学』 74-1(通号 422)	無し		有
37	Yu Terazawa	Research Note : A Confucian Family and Japanese Modernization: The Descendants of the Koga Family in Early 20th-Century Japan	単著	2025 年	『 Asia-Japan Research Academic Bulletin』 No.6	無し	総頁数 15 頁	
38	吉田武弘	書評:『現代社会を拓 く教養知の探究』 教 養教育研究会編、晃 洋書房、2024 年	単著	2025 年 8 月	『立命館アジア・日本研究学 術年報 』 6	無し	pp132-135	有
39	吉田武弘	書評: 十河和貴著『帝 国日本の政党政治構 造—二大政党の統合 構想と〈護憲三派体 制〉(吉田書店、2024 年)』	単著	2026 年 2 月	『立命館史学』 45	無し	pp183-193	有
40	吉田武弘	琵琶湖疏水の歴史と 意義	単著	2025 年 9 月	『湖国と文化』 193	無し	pp76-77	無し
41	山口一樹	滋賀の献上ホテル	単著	2025 年 7 月	『湖国と文化』 49-3	無し	pp.75-77	無し
42	山口一樹	ホテルの献上と滋賀 県	単著	2026 年 1 月	『滋賀のアーカイブズ: 出張 展示特別号』 4、滋賀県立公文 書館	無し	p.1	無し
43	山口一樹	ウシガエルが滋賀県 にやってきた!	単著	2026 年 2 月	『展示図録 新聞記事からみ えた百年前の湖国』 p.4、滋賀 県立公文書館	無し	p.4	無し
44	山口一樹	資料紹介・「花の木」 と中川泉三	単著	2026 年 9 月	『滋賀のアーカイブズ』 18	無し	p.7	無し
45	木多悠介	明治前期における天 皇の軍統帥制度と帷 幄—「統帥権」議論克 服のために—	単著	2025 年 12 月	『立命館大学人文科学研究 所 紀要』 144	無し	pp.147-178	有
46	木多悠介	『江藤哲蔵関係資 料』翻刻 (一)	共著	2025 年 7 月	『立命館文学』 693	海野大地、斎藤仁 志、十河和貴、伊 故海貴則、俵木大 知、那波宏哉、桂 淳志、中村凌太 郎、水谷春都	pp.91-113	有
47	島田龍	左川ちかと川崎家、 余市の文芸	単著	2025 年 4 月	『余市文芸』 50	無し	pp.113-127	無し
48	島田龍	旭川と左川ちか	単著	2025 年 6 月	旭川文学資料友の会の設立 25 周年記念誌	無し	pp.29	無し
49	島田龍	書評・亜月ねね著『み いちゃんと山田さ ん』	単著	2025 年 7 月	『ロマン的なるもの研究会 MAGAZINE』 6	無し	pp.10-12	無し
50	島田龍	書評・乃木坂太郎著 『幽麗塔』	単著	2025 年 10 月	『ロマン的なるもの研究会 MAGAZINE』 7	無し	pp.13-14	無し
51	島田龍	書評・渡辺ペコ著『恋 じゃねえから』	単著	2025 年 12 月	『ロマン的なるもの研究会 MAGAZINE』 8	無し	Pp5-7	無し
52	島田龍	書評・山岸涼子「わた しの人形はよい人	単著	2026 年 2 月	『ロマン的なるもの研究会 MAGAZINE』 9	無し	pp.4-6	無し

		形」「天人唐草」						
53	西田彰一	昭和戦前期の官僚出身者による政治教育団体の創設と展開—守屋栄夫と大日本昭和聯盟」	単著	2025 年 12 月	『ヒストリア』313	無し	pp.239-265	有
54	西田彰一	コラム・「内務省出身者と政治教育—水野錬太郎と政治教育協会」	単著	2025 年 4 月	内務省研究会『内務省—近代日本に君臨した巨大官庁』(講談社現代新書	無し	pp.429-431	無し
55	西田彰一	政治教育協会と戦前日本の主権者教育	単著	2026 年 3 月	稲垣恭子・瀧井一博編『文明史のなかの「日本型教育」—歴史と展望』(法律文化社)	無し	pp.154-175	無し
56	長島修	軍事占領下の華中鉄鉱資源開発—占領地国策会社華中鉱業株式会社の活動を中心に—	単著	2025 年 12 月	『立命館大学人文科学研究所紀要』144	無し	Pp5-43	有
57	佐藤太久磨	『韓国「歴史記憶」へのアプローチ』	共著	2026 年 1 月	漢陽大学校 ERICA 日本学科・BK21FOUR 地域文化の創出と人文活動方法論構築のための日本学教育研究チーム (ISBN : 9788972188605)	李俊榮		無し
58	真杉侑里	私的売春に対する定期的性病検診の導入と実態—内務省衛生局史料および山梨県の事例分析を通じて—	単著	2026 年 2 月	『日本近代学研究』91	無し	pp.229-258	有
59	伊故海貴則	明治 20 年～30 年代北海道移民村落における秩序形成—石狩国花畔村を事例に—	単著	2026 年 9 月	『北海学園大学法学研究』61-2	無し	pp.67-114	有
60	伊故海貴則	明治期北海道の移民村落運営—札幌県域を事例に—	単著	2026 年 9 月	『道歴研年報』26	無し	pp.1-25	有
61	伊故海貴則	2024 年の歴史学会—回顧と展望—：日本(近現代)幕末・維新	単著	2025 年 7 月	『史学雑誌』134—5	無し	pp.136-138	無し
62	奈良勝司	明治維新と政治言語	単著	2025 年	『九州史学』200	無し	pp.48-54	有
63	有村直輝	文献紹介「シェリング以後の自然哲学」の別の可能性—メルロ＝ポンティ、ホワイトヘッドへ	単著	2025 年 4 月	青土社、『現代思想』、53 (8)		PP. 310～322	無
64	有村直輝	「自由と秩序」草稿における想像力の概念について—あるロマン主義的系譜との距離—	単著	2025 年 12 月	日本ホワイトヘッド・プロセス学会、『プロセス思想』、25 巻		PP. 117 ～135	有
65	西山雄二	Deconstruction as the Thinking of Secret	単著	2025 年 7 月	Filosofiya-Philosophy, 34(2)		PP. 182 ～195	無
66	西山雄二	The Creative and Sinister Power of Lying: The Philosophy and Politics of Falsehood	単著	2025 年 12 月	Critique & Humanism, 63(2)		PP. 261 ～272	無
67	西山雄二	アウフヘーブンクと差延—ヘーゲルを読むナンシーとデリダ	単著	2026 年 3 月	Limitrophe、10 号		PP. 176 ～183	無

68	Romarie Jannel	Trustability and trustworthiness: conceptual foundations and the case of AI	共著	2025 年 12 月	AI and Ethics, 6(13)	Jonathan Tallant	PP. 1～13	有
69	Romarie Jannel	Déplacer, décentrer, décaler	共著	2025 年 12 月	Rue Descartes, 2025/HS1	Hugues Choplin, Héctor G. Castaño, Nishiyama Yuji	PP. 89 ～ 101	有
70	Romarie Jannel	Society and Environmental Crisis: A Tribute to Imanishi Kinji and Augustin Berque	単著	2025 年 11 月	The Bulletin of the Japan Society for Global System and Ethics, 20		PP. 171 ～ 176	有
71	廖欽彬	「京都学派と中国シュトラウス派から考えるリベラル・アーツ」	単著	2025 年 4 月	『EAA ブックレット』、第 37 号		PP. 5～16	無
72	廖欽彬	「東アジア哲学成立の可能性」	単著	2025 年 6 月	『人文学報』、第 123 号、京都大学人文科学研究所紀要		PP. 41～55	有
73	廖欽彬	「日本思想と近代超克論：丸山真男と京都学派的交鋒」	単著	2025 年	『文化与伝播』2025 年第 3 期		PP. 59～65	有
74	廖欽彬	「中国哲学のコンテクストにおける本体論と形而上学」	共訳	2025 年 12 月	『求真』、第 30 号	鄭開 (著)、河合一樹・王晓亮 (共訳)	PP. 1～21	有
75	鈴木崇志	思い込みと出会い：廣松渉とフッサールの他者論の比較	単著	2026 年 1 月	『立命館大学人文科学研究所紀要』第 145 号		PP. 93～113	有
76	丸橋 裕	ヴィクトーア・フォン・ヴァイツゼカーにおける間主体性への接近の試み	単著	2026 年 1 月	晃洋書房	編者 清水健信	PP. 63～94	無
77	丸橋 裕	書評：André Laks, Plato's Second Republic. An Essay on the Laws.	単著	2026 年 3 月	西洋古典学研究 LXXIII	日本西洋古典学会	PP. 110 ～ 112	無
78	Yusuke Miyazaki	Blindness and Insight of Reading: Deconstruction Between Jacques Derrida and Paul de Man	単著	2025 年 6 月	Filosofiya-Philosophy, vol.34, no.2		PP. 217 ～ 230	有
79	宮崎裕助	誰がスピノザを恐れているのか—超越論哲学／デリダのスピノザ忌避について	単著	2025 年 6 月	スピノザ協会『スピノザーナ』第 19 号		PP. 58～75	有
80	宮崎裕助	亡命言語としての母語—ハンナ・アーレントと言語の複数性	単著	2026 年 1 月	青土社『現代思想』第 54 巻・第 3 号		PP. 260 ～ 274	無
81	宮崎裕助	ロゴス中心主義なき音声中心主義—デリダ、柄谷行人、脱構築の普遍性	単著	2026 年 3 月	脱構築研究会『Suppléments』第 5 号		PP. 47～63	無
82	堀内智吉	〔翻訳〕「文化の哲学」における歴史的課題：京都学派の読解を通じて	単訳	2026 年 1 月	立命館大学人文科学研究所、人文科学研究所紀要、145 巻	スティーブン・ロフツ	PP. 115 ～ 139	無
83	堀内智吉	〔書評〕鈴木崇志「フッサール入門」	単著	2026 年 3 月	立命館大学哲学会、立命館哲学、37 巻		PP. 55～63	無
84	青柳雅文	アドルノのマンハイム論	単著	2026 年 1 月	立命館大学人文科学研究所『立命館大学人文科学研究所紀要』145 号		PP. 345～362	有
85	加國尚志	錯綜体、潜在性-市川浩身体論再考	単著	2026 年 1 月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀		PP. 362～383	有

					要, 3 巻 4 号			
86	紀平知樹	観光における「滞在」の不可能性と可能性—Heidegger の旅行記から	単著	2025 年 9 月	観光学術学会、『観光学評論』、13 巻・2 号		PP. 103 ~ 118	有
87	郷原佳以	分泌の光景へ——「テキスト「ミレイユ・カル＝グリユベール」の教え	単著	2026 年 3 月	立教大学フランス文学研究室, 立教大学フランス文学, 55 号		PP. 99 ~ 110	無
88	郷原佳以	「散種」と枠の問題・序説	単著	2026 年 1 月	東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻, 言語・情報・テキスト, 32 号		PP. 17~32	無
89	郷原佳以	現在の憑依——岡崎乾二郎の「わたし」	単著	2025 年 7 月	青土社, ユリイカ, 57 巻 9 号		PP. 366 ~ 376	無
90	郷原佳以	ジャック・デリダ『死刑Ⅱ』翻訳	共訳	2026 年 2 月	白水社	西山雄二・佐藤嘉幸・工藤顕太・佐藤朋子	PP. 77 ~ 134	無
91	長坂真澄	暴力に対する抵抗と身体の変容 エルザ・ドルランの餌食の現象学を端緒として	単著	2025 年 10 月	日本現象学会、現象学年報、41 号		PP. 1~14	無（招待有）
92	長坂真澄	現象学のシェリング的転回——リシールによる『人間的自由の本質』読解より	単著	2025 年 10 月	岩波書店、思想、1219 号		PP. 121 ~ 136	無（招待有）
93	長坂真澄	L'auto-affection chez Kant selon Benoist - comme indice pour comprendre la critique lévinassienne de Heidegger	単著	2025 年 9 月	レヴィナス協会、レヴィナス研究、7 号		PP. 31 ~ 40	無（招待有）
94	長坂真澄	存在についての思惟と無限についての思惟——デリダ「暴力と形而上学」におけるスコトゥス言及をめぐって——	単著	2025 年 6 年	京都ユダヤ思想学会、京都ユダヤ思想、16 号		PP. 31 ~ 56	有
95	中澤栄輔	Neuroethics Rounds: Place-Sensitive Approaches for Daily Interfaces of Neuroscience- Neuroethics Ecosystems	共著	2025 年 4 月	The American Journal of Bioethics Neuroscience. 16(2)	Ino H, Takimoto Y	PP. 115 ~ 118	有
96	中澤栄輔	From Technocracy to Democracy: The Need for Another Translational Justice	共著	2025 年 6 月	The American Journal of Bioethics Neuroscience. 25(6)	Yamamoto K, Ibuki T	PP. 48~50	有
97	中澤栄輔	Ethical, legal, social, and cultural implications of the non-clinical use of transcranial direct current stimulation (tDCS) in Korea and Japan	共著	2025 年 8 月	Neuroscience Research 2025 Aug 6; 219:	Choi S, Jwa AS, Shim J, Kim S, Eom J, Takimoto Y, Nakazawa E, Ryu YJ	104951	有
98	柿木伸之	未成の青春——クリストフ・フリードリヒ・ハインレの詩とその断絶が問いかけるもの	単著	2025 年 9 月	西南学院大学国際文化学部『国際文化論集』第 40 巻第 1 号		PP. 185 ~ 242	無

99	柿木伸之	中断としての終末 —ベンヤミンの終 わりへの問い	単著	2025 年 10 月	青土社『現代思想』		PP. 167 ～ 178	無
100	柿木伸之	柿木伸之「人間の彼 方からうたう—破 局からの詩学のため に」	単著	2026年3月	形象論研究会『形象』第7号		PP. 59～81	無
101	亀井大輔	デリダの終末論的思 考—「終わり」から 「出来事」へ	単著	2025 年 11 月	現代思想。53(14)		PP. 194 ～ 203	無
102	亀井大輔	痕跡・贈与・正義— ハイデガーを追うデ リダ—	単著	2026年1月	立命館大学人文科学研究so紀 要、145号		PP. 23～39	有
103	亀井大輔	デリダとガダマーの 「ハイデルベルク会 談」を読む	単著	2026年3月	ガダマー研究、2号		PP. 14～27	無
104	亀井大輔	「いき」と「ゲシュレ ヒト」—ハイデガ ー、九鬼、デリダ	単著	2026年3月	脱構築研究会、Suppléments、 5号		PP. 36～46	無
105	亀井大輔	カトリヌ・シャリ エ『無限者の痕跡： エマニュエル・レヴ ィナスとヘブライ的 源泉』をめぐって— デリダ、ハイデガー、 レヴィナス研究から—	共著	2026年3月	富山大学教養教育院紀要、7号	佐藤香織，山本英 輔，横地徳廣	PP. 59～81	有
106	黒岡佳柊	「決まり文句」の暴 力に対する思考の役 割——アレントとハ イデガー	単著	2026年1月	立命館大学人文科学研究so 『立命館大学人文科学研究so 紀要』No.145		PP. 383 ～ 406	有
107	佐藤愛	『精神分析の系譜』 再読——失われた始 源から喪失による生 へ	単著	2025年9月	ミシェル・アンリ研究、15号		PP. 17～27	無
108	日暮雅夫	「日本におけるフラ ンクフルト批判理論 の受容と展開（2）」	単著	2025年4月	『市民科学通信』 04/2025/No.59、発行 NGO 市 民科学京都研究所発行	照井日出喜	PP. 29～34	無
109	日暮雅夫	「日本におけるフラ ンクフルト批判理論 の受容と展開（3）」	単著	2025年5月	05/2025/No.60、発行 NGO 市 民科学京都研究所発行	照井日出喜	PP. 66～71	無
110	M.ジェイ、 翻訳・解題 日暮雅夫	「フランクフルト学 派の歴史を拡張され た場に置く」	単著	2025年7月	『思想』2025 年 7 月号 No.1215、岩波書店、		PP. 44～57	有
111	日暮雅夫	「戦争責任をめぐる 二つの歴史論争—— 批判理論から見た戦 後民主主義——」	単著	2026年3月	『立命館産業社会論集』第6巻 第4号		PP. 65～77	有
112	ウェルズ恵 子	おとぎ話の中の沈 黙：物語ること、語ら ないこと、語れない こと（講演会記録）	単著	2026年3月	立命館言語文化研究 第37巻 3号		PP. 83～87	無
113	三枝暁子	社会集団の周縁化か らみた中世社会と近 世社会	単著	2025 年 12 月	部落問題研究所『部落問題研 究』255		PP. 15～25	無
114	三枝暁子	エッセイ「語りと史 料」	単著	2025 年 12 月	日本古文書学会『古文書研究』 100		PP. 90～93	無
115	三枝暁子	松梅院禅光—排除へ の抵抗を試みた僧—	単著	2026年1月	日本歴史学会『日本歴史』932		PP. 51～55	有
116	松原大介	内田百閒「旅順入城 式」論——「記録」か ら逸脱する「私」の語 り——	単著	2025年5月	『阪神近代文学研究』第26号		PP. 17～30	有

117	松原大介	内田百閒「猫」論—— 初出雑誌『新青年』の 特徴から読み解く——	単著	2025年5月	『日本近代文学』第112集		PP. 31～46	有
118	佐々木梓	批評の萌芽—小林秀 雄「からくり」論—	単著	2025年5月	日本近代文学会、日本近代文 学、112集		PP. 79～94	有
119	佐々木梓	太平洋戦争開戦時の 文学者による評論テ キストを対象とした 通時的・共時的分析 の試み	共著	2025年11 月	情報処理学会、『じんもんこん 論文集2025』	山木良輔、金村一 輝	PP. 93～ 100	有
120	佐々木梓	小林秀雄「おふえり や遺文」論—ランボ ーのエピグラフをめ ぐって—	単著	2025年12 月	全国大学国語国文学会、『文 学・語学』245号		PP. 14～24	有
121	Artem Galushko, Megumi Ochi	Generative artificial intelligence and AI- enabled archiving to promote Digital Sovereignty in the context of core international crimes	共著	2026年3月	Sanjay Misra, Petter Kvalvik, Bjørn Axel Gran, Kai Morgan Kjølerbakken, Aida Omerovic, Nadia Saad Noori (eds), Artificial Intelligence in Context of Digital Sovereignty (Routledge)	Tetiana Lutchyn, Benjamin Ricaud		有
122	越智萌	国際刑事裁判所の賠 償判例における変革 的正義アプローチ： 地域主体性と被害者 中心主義、プロセス 志向、構造への挑戦	単著	2026年3月	立命館国際研究 38(3)		35-52	
123	Megumi Ochi	Digital Evidence in Ukrainian War Crimes Trials: Effective Use and Challenges	単著	2025年7月	Artem Galushko and Megumi Ochi (eds.), Collecting Cyber Evidence During Ongoing Hybrid Warfare: OSINT and Civilian-led Documentation of Core International Crimes		273-297	
124	Megumi Ochi, Håvard Dagenborg	Online War-Crimes Archives: A Call for a Universal Guideline	単著	2025年7月	Artem Galushko and Megumi Ochi (eds.) , Collecting Cyber Evidence During Ongoing Hybrid Warfare: OSINT and Civilian-led Documentation of Core International Crimes		215-244	
125	塩見俊一	日本におけるスケ ートボード草創期再 論：サーフィン、ビ ジネス、スケートボ ードパークに注目して	単著	2026年2月	立命館大学人文が学研究所紀 要, 146巻		PP.337-368	有
126	塩見俊一	日本におけるスケ ートボードの諸相と展 望	単著	2026年2月	立命館大学人文が学研究所紀 要, 146巻		PP.281-294	有
127	豊島誠也	アーバンスポーツの 概念と展開に関する 一考察：広島県を中 心とした実態分析	単著	2026年2月	立命館大学人文が学研究所紀 要, 146巻		PP.369-398	有
128	平石貴士	アーバンスポーツ研 究としてイアン・ボ ーデンを読む：零 度建築からの離反、 都市のリズム、シン ボルの生産	単著	2026年2月	立命館大学人文が学研究所紀 要, 146巻		PP.239- 268	有
129	Jim Ueda	Supporting coach- led dual career guidance for	共著	2025年11 月	Frontiers in Sports and Active Living	Goichi Hagiwara, Kayoko Kurita,		

		student-athletes' validation of the web-based Japanese version of the dual career competency questionnaire for athletes				Tadao Isaka, Katsuhiko Ishikawa, and Daisuke Akiyama		
130	Masahisa Deguchi	Online-Verfahren und Prozessmaximen im Zivilprozess Masahisa Deguchi	単著	2026年1月	Rechtsstaatliche Anforderungen im Zivilprozess Tagungsband des Türkisch-Japanisch-Deutschen Rechtssymposiums vom 23. bis 25. November 2023 Mohr Siebeck1. Auflage ISBN:978-3-16-164454-2 Reihe:Schriften zum Ostasiatischen Privatrecht Verlag:Mohr Siebeck	Herausgegeben von Karen Klein, Özden Özkaya-Ferendeci und Henning Rosenau	PP.127 ~ 155 PP.167 ~ 182	

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	Hideki ENDO	Toward a Social Theory of Digitalized Mobilities: Assembling Human and More-than-Human Infrastructures	2025年12月	2025 GLOBAL MOBILITY HUMANITIES CONFERENCE	
2	遠藤英樹	モビリティーズ研究の可能性と困難を考えるコメント	2025年12月	人文地理学会・観光空間研究部会	
3	遠藤英樹	アルゴリズムミックな超後期近代（hyper late modernity）に生きる——SNSの承認からトランプ政権の誕生、戦争まで	2026年1月	2026 ソウル・京都東アジア次世代フォーラム	
4	Hideki ENDO	Tourism mobilities in the age of algorithmic hyper-late modernity	2026年3月	ATLAS Critical Tourism Studies Asia Pacific: In-between Conference 2026, Ritsumeikan University	
5	遠藤英樹	アルゴリズムミックな超後期近代（hyper late modernity）時代におけるツーリズム・モビリティーズ	2026年3月	令和7年度国立民族学博物館共同研究会「観光人類学 3.0——身体経験と循環の観点から」	
6	神田孝治	変転する瀬戸内の観光と地域	2025年11月	「繼往開来:第四屆全國地方學暨海山學研究中心創立、新北市立圖書館總館落成十週年」國際學術研討會(於:國立臺北大學公共事務學院)	
7	山本 理佳	瀬戸内地域における近代の文化遺産と観光の多様性	2025年11月	「繼往開来:第四屆全國地方學 海山學研究中心創立十週年」國際學術研討會【於:國立臺北大學(台湾・新北市)】	
8	Rika YAMAMOTO	Tourism and Changes in Places of Memory: The Miike Coal Mine	2026年3月	ATLAS Critical Tourism Studies Asia Pacific: In-between Conference 2026, Ritsumeikan University	
9	Mayumi ONO	Digital Relatedness and Subjective Well-being of Japanese Retirement Migrants in Malaysia	2026年3月	ATLAS Critical Tourism Studies Asia Pacific: In-between Conference 2026, Ritsumeikan University	
10	Saori HAGAI	When Girls Surpass Boys: The Reverse Gender Gap and the Fluidity of Gender in	2026年2月	Comparative Education Society of Hong Kong, Panel Discussion Rethinking Equality in Education: The Reverse Gender Gap and the	

		Cambodian Education		Limits of Binary Analysis in Southeast Asia, The University of Hong Kong Faculty of Education	
11	Saori HAGAI	From White Cotton Cloth to Precious Gem?-The Veneer of Equality in Gender Discourse and Policy of Cambodian Higher Education	2025 年 7 月	International Reverse Gender Gap (RGG) Workshop at Waseda University	
12	羽谷沙織	「課題研究I:ボーダースタディーズが照らし出す国境・境界地域の比較教育」ータイ国境地域の教育ランドスケープ-外国籍・無国籍児童生徒の教育選択と移動行動の分析-	2025 年 6 月	第 61 回日本比較教育学会	
13	市井吉興	都市空間におけるスケートボードを「犯罪化」するポリティクスとは?:スポーツ犯罪学的試論	2025 年 8 月	日本体育・スポーツ・健康学会 第 75 回大会(日本体育大学)	
14	市井吉興	「逸脱したレジャー (Deviant Leisure)」研究が提示する課題とは?:レジャーに埋め込まれた「危害 (harm)」の把握とその超克	2026 年 3 月	日本スポーツ社会学会 第 35 回大会 (日本女子大学)	
15	川村 仁子	先端科学技術ガバナンスと人間社会—AI 時代における人間の尊厳・権利・責任の未来—	2025 年 11 月 8 日	2025 年度同済大学・立命館孔子学院合同セミナーシンポジウム「人工知能の社会実装の推進とガバナンス」、グラングリーン大阪北館 5 階 JAM BASE CONFERENCE5-1、オンライン	
16	石田雅芳	イタリア軒:日本初のイタリアンレストランと、創業者ピエトロ・ミオラの物語	2025 年 9 月 21 日	European Association for Japanese Studies 東北大学	
17	石田雅芳	Reconfiguring Terroir and Well-being	2025 年 5 月 29 日	1st Italian and Japanese Rector's Forum, Expo Osaka	
18	石田雅芳	Pietro Miola Il fondatore del primo ristorante italiano in Giappone	2026 年 3 月 9 日	Università di Camerino (イタリア、カメリーノ市)	
19	高田剛司	計画行政の体系化に向けて	2025 年 9 月	日本計画行政学会第 48 回全国大会シンポジウム パネルディスカッション、宮城大学	
20	高田剛司	「フードツーリズムの視点から見た伊勢参り」:伊勢・山田のまちにおける「食」の観光魅力創出の挑戦 -外宮周辺に広がる中心市街地の活性化を目指して-	2025 年 8 月	和食文化学会第 8 回研究大会シンポジウム 基調講演、立命館大学	
21	高田剛司	ガストロノミーツーリズムと地域活性化の可能性-人口減少社会における日本の地方創生と食の役割-	2025 年 8 月	アジア食学会第 2 回研究大会/第 15 回亜細学論壇 基調講演、立命館大学	
22	Yosuke Nimura	Exploring “Malay(s)ian War Literature in English”: A Comparative Reading of Chin Kee Onn’s Ma-Rai-Ee and Gregory De Souza’s Only a Taxi Dancer	2025 年 8 月	The 13th Malaysia International Conference on Languages, Literatures, and Cultures (MICOLLAC)	
23	Yosuke Nimura	Seeing the unseen: Revisiting the Theoretical Approach to War Literature in British Malaya and Imperial Japan	2025 年 8 月	The 3rd IACRS International Conference	

24	二村洋輔	記憶・忘却・イデオロギー：シンガポールとマレーシアの国立博物館の比較から	2025 年 9 月	日本比較文化学会中部支部 第 15 回支部大会	
25	Yosuke Nimura	Ideological Revitalisation of the Past: A Critical Analysis of the Two New Exhibitions of the National Museum of Singapore	2026 年 3 月	The 4th IACRS Conference Thailand	
26	Yosuke Nimura	At the Heart of Darkness: Exploring a Kampong in Gombak and Orang Asli Museum Gombak	2026 年 3 月	The 4th IACRS Conference Thailand	
27	二村洋輔	南方徴用作家としての佐多稲子と その表象における問題	2026 年 3 月	日本比較文化学会中部支部 令和 7 年度(2025 年度)例会	
28	Junwoo Han	Depopulation and Tourism Development of Kawazu Town, Japan: From 'Refresh Resort Kawazu Plan' to Tourism-based Community Development centred on Flowers	2025 年 6 月	International Sociological Association, RC50 International Tourism, Interim Conference 2025	
29	橋本和也	地域化する「地域芸術祭」:ANT+情動論的視点から	2026 年 2 月	人文地理学会観光空間部会 第 15 回研究会	
30	種田博之	HPV ワクチン勧奨接種の一時停止から再開という転換	2025 年 11 月	日本社会学会 第 98 回大会 一橋大学	
31	Yasuda, Shin	Tourism Asset Management in Religious Cities: A Case Study of Religious Resources in Japanese Sacred Sites	2025 年 6 月	16th International Conference of Religious Tourism and Pilgrimage, Palermo University	
32	安田慎	新自由主義社会における観光経験をめぐる研究:プロダクティビティとスピリチュアリティの観点から	2025 年 7 月	観光学術学会第 14 回大会、琉球大学	
33	Yasuda, Shin	Financial Management of Sacred Sites: A Comparative Perspective on Pilgrimage and Religious Tourism	2025 年 9 月	19th session on Webinar Series on Pilgrimage in the World, Online	
34	Yasuda, Shin	Religious Asset Management and Religious Capital in Islamic Tourism	2025 年 11 月	3rd International Conference on Islamic and Halal Economic Studies, Marriot Hotel Yogyakarta, Indonesia	
35	Yasuda, Shin	Religious Asset Management for Religious Tourism in Japan: A Case Study of Yamana Hachiman Shrine in Takasaki City, Gunma	2025 年 11 月	Asia Pacific Conference 2025, Ritsumeikan Asia Pacific University	
36	安田慎	観光政策におけるクリエイティブ・エコノミー論:湾岸諸国におけるクリエイティブ産業を中心に	2025 年 12 月	日本観光研究学会・第 40 回年次大会	
37	Shin Yasuda,	Making Finance Sustainable in Sacred Sites: A Comparative Study of Religious	2026 年 1 月	4th Asia-Pacific Religious Tourism and Pilgrimage Conference, Online	

		Tourism and Pilgrimage from the Asia-Pacific Perspective			
38	Shin Yasuda,	Exploring the Value of Socialising in Islamic Tourism: Perspectives from Adab Literatures	2026 年 2 月	7th International Colloquium on Asian Paths of Civilization and Development, Ritsumeikan University	
39	Shin Yasuda,	Dynamics of Mobility in Managing Religious Assets	2026 年 3 月	ATLAS Critical Tourism Studies Asia Pacific: In-between Conference 2026, Ritsumeikan University	
40	薬師寺浩之	海外研修旅行に対する参加学生の満足感に関する一考察	2025 年 9 月	日本地理学会 2025 年秋季学術大会	
41	Hiroyuki YAKUSHIJI	Perceptions and Coping Strategies regarding Overcrowding among Foreign Tourists in Kyoto City	2026 年 3 月	ATLAS Critical Tourism Studies Asia Pacific: In-between Conference 2026, Ritsumeikan University	
42	Hassall Yasuko Kobayashi	Global History of WWII Migration from a Non-Western Lens: Comfort Women as Forced War Labour Migration	2025 年 9 月	SEAA-SNU ANTHROPOLOGY 2025 CONFERENCE (国際学会)	
43	Hassall Yasuko Kobayashi	Wartime Mobilization and Social Inequality: The Case of Fujikura Gakuen, a Facility for Disabled Individuals in Japan	2025 年 10 月	Japanese Studies Association Australia, 'Marginal places, flows, identities'	
44	Hassall Yasuko Kobayashi	Wartime Mobilization and Social Inequality: The Case of Fujikura Gakuen, a Facility for Disabled Individuals in Japan	2025 年 12 月	2025 GLOBAL MOBILITY HUMANITIES CONFERENCE (韓国ソウル&Zoom)	
45	Hassall Yasuko Kobayashi	The Asia Pacific War: Through Border-Crossing Mobilities: A methodological reorientation for war histories	2026 年 3 月	ATLAS Critical Tourism Studies Asia Pacific: In-between Conference 2026, Ritsumeikan University	
46	横山楓樹	Unanticipated Attitudes towards Social Investment?: Precarious Workers' Attitudes and Macro-level Arrangements	2026 年 2 月	International Postgraduate and Academic Conference 2026	
47	横山楓樹	日本型雇用システムによる積極的労働市場政策の制約?: 雇用システムの内実に着目した一考察	2025 年 12 月	2025 年度 (第 90 回) 社会政策学会関西西部会	
48	角田燎	自著を語る～MY FIRST BOOK～『陸軍将校たちの戦後史』	2025 年 5 月	第 76 回関西社会学会大会	
49	角田燎	戦友会会誌のメディア的特徴と組織文化—陸海軍士官戦友会の事例から	2025 年 6 月	日本メディア学会 2025 年春季大会	
50	角田燎	戦後民主主義と元軍人の政治参加——軍人恩給をめぐる運動とその社会的意義	2025 年 11 月	第 98 回日本社会学会大会	
51	角田燎	The Construction of War Memory in the Postwar Imperial Japanese Naval Community:	2025 年 11 月	Asia Pacific Conference 2025	

		Generational Differences in the Narratives of the Suikō Newsletter			
52	下村晃平	近年の知識社会学的研究の動向について ―思想の社会学とインテレクチュアル・ヒストリーの交差の観点から―	2025 年 5 月	第 76 回関西社会学会大会	
53	下村晃平	知識社会学で読み解く 1966 年モンペルラン協会東京大会	2025 年 9 月	経済社会学会第 61 回全国大会	
54	下村晃平	日本のネオリベリズム研究に向けて ― 1966 年モンペルラン協会東京地域大会に着目して	2025 年 11 月	カルチュラル・タイフーン 2025	
55	下村晃平	知識社会学の復権に向けて―ハイエクの「ネオリベリズム」使用の変遷を事例として	2025 年 11 月	第 98 回日本社会学会大会	
56	下村晃平	自著を語る	2026 年 2 月	経済学史学会関西西部会 第 188 回例会	
57	加藤雅俊	日本型統治システムにおける司法の位置とその変容―政治学からの批判的考察	2025 年 5 月	2025 年度日本法社会学会研究大会	
58	加藤雅俊	裁判闘争の非意図的な帰結―諫早湾干拓紛争からみる「司法と政治のダイナミズム」と紛争処理に向けて―	2025 年 6 月	2025 年度日本公共政策学会研究大会	
59	加藤雅俊	利益・制度・アイディアに注目する政治分析を越えて―批判的実在論に依拠した政治学の可能性―	2025 年 10 月	2025 年度日本政治学会研究大会	
60	宮下祥子	日高六郎の社会意識研究―1950 年代を中心に―	2025 年 6 月 28 日	日本社会史学会第 64 回大会、神戸学院大学ポートアイランドキャンパス	無し
61	中村凌太郎	経済外交時代の到来と外務省―商務官の設置を中心に―（パネル報告「第一次大戦後の国際変動と日本外交」）	2025 年 10 月 17 日	日本国際政治学会 2025 年度研究大会「日本外交史分科会」、神戸国際会議場	江子正
62	丸山彩	明治後期の京都盲啞院における演奏会	2025 年 11 月	日本音楽教育学会第 56 回大会、長崎大学	無し
63	丸山彩	明治後期の京都における演奏会―慈善音楽会に着目して―	2025 年 11 月	東洋音楽学会第 76 回大会、沖縄県立芸術大学	無し
64	寺澤優	東北恐慌後の人身取引と性売買	2025 年 7 月	国四国歴史学地理学協議会 2025 年度大会、広島大学（東広島市）	無し
65	寺澤優	花柳界関係雑誌をめぐる史料の限界と課題	2025 年 9 月	Antitled 友の会第 4 回研究大会、立命館大学（衣笠キャンパス）	無し
66	Yu Terazawa	Confucian Family Beyond the Oblivion: The Descendants of Koga's 3 Generations in Early 20th-Century Japan	2025 年 9 月	EAJS Japan Conference 2025、東北大学（仙台市）	無し
67	寺澤優	帝国日本における性売買に関する社会変革の試み―1920 年代の台湾と 1930 年代の東京・玉井の事例から	2025 年 10 月	日文研木曜セミナー、国際日本文化研究センター（京都市）	無し
68	山口一樹	大戦間期日本の政-軍関係―内閣制度と軍部―	2025 年 6 月 21 日	近代日本政治・軍事史研究会	無し
69	山口一樹	コメント：高杉洋平著『昭和陸軍と政治』（吉川弘文	2025 年 8 月 13 日	日本政治外交史ネットワーク	無し

		館、2020 年)			
70	山口一樹	大正末年の戦時大本営編 制改正と戦争指導機構 想の挫折	2025 年 10 月 24 日	第 1 回近代日本思想史研究会（立命館 大学衣笠キャンパス）	無し
71	木多悠介	明治前期における陸軍の 統帥制度認識と陸軍会計 制度	2025 年 12 月	第 2 回近代日本思想史研究会（立命館 大学衣笠キャンパス）	無し
72	島田龍	記憶と記録のモダニズム 鳥羽茂がいた頃～内堀弘 『ボン書店の幻』を読む	2025 年 5 月 17 日	ロマン的なもの研究会、京都市東山 いきいき市民活動センター	無し
73	西田彰一	昭和戦前期における「政治 教育」団体と官僚出身政治 家の活動 ―衆議院議員 守屋栄夫と大日本昭和聯 盟の発足を中心に	2025 年 6 月 29 日	大阪歴史学会大会近代史部会（大阪 市）	無し
74	西田彰一	寛克彦の「神ながらの道」 のキリスト者への影響― 「日本的基督教」との関わ り―	2025 年 7 月 26 日	国際日本研究セミナー（岡山大学）	無し
75	西田彰一	戦後日本における国体論 の継承 ―1950 年代の三 瀧信吾を対象に―	2025 年 11 月 2 日	2025 年度日本思想史学会大会（京都 大学）	無し
76	西田彰一	海老名弾正と寛克彦― 「日本的基督教」をめぐる 関係性	2026 年 3 月 28 日	東海／宗教史研究コンソシアム第 6 回 研究会（南山大学名古屋キャンパス）	無し
77	佐藤太久磨	植民地帝国日本の「民主 主義」	2025 年 6 月	早稲田大学 SI プログラム、zoom	無し
78	佐藤太久磨	代日本のナショナル・アイ デンティティ―「国民国 家型帝国」の自家撞着	2025 年 10 月	2025 年度東北アジア学生国際フォー ラム・北海道大学	無し
79	真杉侑里	山梨県上野原町 帳簿にみ る接客業婦健診の状況―違 法売春管理の変遷に関す る一考察―	2025 年 5 月	韓国日本近代学会・済州大学	無し
80	真杉侑里	帳簿史料の研究利用と個 人情報の問題	2025 年 9 月	Antitled 友の会 第 4 回研究大会、立命 館大学（衣笠キャンパス）	無し
81	奈良勝司	コメント：曹永憲報告 「2022 年度改正高校〈世 界史〉教科書の近世史及び 東アジア国際関係記述の 分析 ―元・明・清を中心」	2025 年	日韓歴史教育フォーラム、韓国・フレ イザープレイスソウル会議室	無し
82	奈良勝司	浦賀奉行戸田氏栄の積極 開国論	2025 年	EAJS Japan 2025、東北大学（仙台市）	無し
83	奈良勝司	総論：幕末維新期の列島社 会と「公議」「公論」	2026 年	「公議」研究会例会	無し
84	有村直輝	自然は想像力そのもの― E. D. フォーセットのイマ ジニズムとホワイトヘッ ド哲学との接点―	2025 年 10 月	日本ホワイトヘッド・プロセス学会第 47 回全国大会、中央大学	
85	佐藤勇一	メルロ＝ポンティ哲学の マルロー読解をめぐって ―1940 年代後半を中心 に	2025 年 9 月	メルロ＝ポンティ・サークル第 31 回 大会、東北大学	
86	西山雄二	La bête et l'hôte : L'hospitalité de l'île »,	2025 年 6 月	Déconstruction-Hospitalité. Expérience(s) des frontières, Université Paris Nanterre	
87	Romarc Jannel	“An Experience of Going Through the Untranslatable: Aufhebung, différance and awai”	2025 年 4 月	Philosophy as Translation. Philosophical and Educational Perspectives, 京都大学	
88	Romarc Jannel	Toward a Dispassionate Philosophy of AI”	2026 年 2 月	International Online Session “Human Society and AI – How is our	

				Co-Existence possible based on Irrefutable Truth and General Good?”, “KoPhil” Vienna and The Japan Society for Global System and Ethics, オンライン	
89	Romarie Jannel	La phénoménologie dialectique de Trần Đức Thảo et son objet	2026 年 2 月	International Symposium, 「二十世紀哲学における物論的弁証法の展望 フランスと日本、そして両者の媒介としてのチャン・デュク・タオ」, 立命館大学	
90	Romarie Jannel	自然の余白と美の倫理学発表：シーズン・ラオ (Season Lao) の作品における場のもの	2025 年 11 月	地球システム・倫理学会 第 21 回学術大会、国際ファッション専門職大学	
91	Romarie Jannel	Trust and Local Specificity in Environmental Ethics	2025 年 10 月	Tsukuba Conference For Future Shapers 2025, Tsukuba University	
92	Romarie Jannel	Natural Emptiness and Co-emergence — A Philosophical Dialogue on the Art of Season Lao	2025 年 9 月	Workshop for Atmospheric Studies: “Aesthetics of qi/ki and Atmosphere: Steps towards East Asian Possibilities”, Kobe University	
93	Romarie Jannel	絶対無の可能性——形而上学と倫理の架橋	2025 年 6 月	Eighth World Conference of the International Association for Japanese Philosophy, 東京大学	
94	Romarie Jannel	A Footnote to Derrida	2025 年 5 月	Workshop: Derrida and Japanese-Asian Philosophies, Ritsumeikan University	
95	Yusuke Miyazaki	Phonocentrism without Logocentrism: Jacques Derrida’s Response to Kojin Karatani’s “Nationalism and Écriture”	2025 年 5 月	ワークショップ「デリダと日本・東アジアの哲学」、立命館大学衣笠キャンパス	立命館大学・間文化現象学研究センター／人文科学研究所
96	宮崎裕助	触覚「なるもの」は存在しない——ジャック・デリダ『触覚、ジャン＝リュック・ナンシーに触れる』をめぐって	2025 年 10 月	シンポジウム「フランス哲学における「現れないものの現象学」再考」、秋田大学、手形キャンパス	東北哲学会
97	宮崎裕助	アリストテレスの共通感覚論——ダニエル・ヘラー＝ローゼン『内的触覚』第 2~3 章にそくして	2025 年 11 月	第 1 回共通感覚研究会、神戸駅前 AT ビル 10 階コワーキングスペース Suki_ma(スキマ)	共通感覚研究会
98	宮崎裕助	三木清『構想力の論理』における技術の脱構築／脱構築の技術	2025 年 12 月	ワークショップ「三木清『構想力の論理』を読む——技術論を中心に」、専修大学	脱構築研究会、専修大学哲学会
99	宮崎裕助	カントの理念とその使用のアポリア	2025 年 12 月	カント研究会第 382 回例会「宮村悠介著『カント「人倫の形而上学」の生成——理念論の道をたどる』合評会」法政大学大学院棟	カント研究会
100	堀内智吉	普遍的道德への懐疑——デュルケムのカント批判をもとに	2025 年 9 月	科研費「ハイデッガーの歴史性概念に基づく自己と共同体の理論の構築」に関する第 4 回研究会、立命館大学	
101	堀内智吉	定言命法の陥穽——デュルケムのカント批判から	2025 年 10 月	日本倫理学会、東北大学	
102	堀内智吉	うんこはなぜ隠されるのか——人の尊厳をめぐる問題について	2026 年 3 月	ワークショップ「うんこの哲学」、立命館大学	
103	丹羽一晃	アクターネットワーク理論からモア・ザン・ヒューマン・スタディーズへ：策士か？ベテニ師か？ブリュノ・ラトゥールとの適切な距離を考える【ワークショップ：代表】 The Routledge International	2025 年 11 月	共生社会システム学会 2025 年度大会、大和大学	太田和彦、大場優志

		Handbook of More-than-Human Studies を読む			
104	紀平知樹	オーバーツーリズムと技術の問題：観光客の技術的制御の倫理的妥当性	2025 年 12 月	科学技術社会論学会、常磐大学	
105	郷原佳以	安住しないために——『野生の教養』をめぐる	2025 年 12 月	『野生の教養Ⅱ』合評会「カオスによる共同性あるいは基盤的アナキズム」、明治大学和泉キャンパス和泉図書館ホール	
106	郷原佳以	La sincérité et le silence chez Blanchot – en comparaison avec Merleau-Ponty	2025 年 11 月	Webinaire Maurice Blanchot、オンライン	
107	郷原佳以	四人称について	2025 年 10 月	物語論×バンヴェニスト研究会、明治大学駿河台キャンパス研究棟第三会議室	
108	郷原佳以	「カフカの」『幻想』をめぐる——戦間期の終わりにおけるサルトルとブランショ	2025 年 8 月	「戦間期」フランス研究会、東京大学駒場キャンパス 18 号館コラボレーションルーム 3	
109	郷原佳以	Recherches blanchotiennes sur le langage littéraire – à partir des sujets merleau-pontiens de « sincérité » et de « silence »	2025 年 6 月	Journée d'études « Maurice Merleau-Ponty et les Recherches sur l'usage littéraire du langage : situation et perspectives », École Normale Supérieure, Salle Dussane	
110	長坂真澄	Phantasia, schematisation, and eidetic seeing	2026 年 3 月	WIAS Symposium: “Transcendental Philosophy – 超越論哲学”、Waseda University	
111	長坂真澄	ジャック・デリダ『理論と実践』	2026 年 3 月	ジャック・デリダ 未刊行セミナー研究会、専修大学／オンライン	
112	長坂真澄	Architecture between Art and Technology: Based on Heidegger's Reading of Aristotle	2025 年 10 月	Active Agents: Toward a Critical Archaeology of the Architecture Discipline, Waseda University	
113	長坂真澄	τὸ ἐξαιρῶνς と隔時性——レヴィナス『全体性と無限』刊行後の関連原稿から	2025 年 9 月	レヴィナス協会第 8 回大会、同志社大学／オンライン	
114	長坂真澄	想像力と自然——メルロ＝ポンティ『自然』講義とともに辿る、シェリングによるカントの継承——	2025 年 9 月	メルロ＝ポンティ・サークル 第 31 回研究大会、東北大学／オンライン	
115	長坂真澄	Reality Preceding Possibility: Phenomenology amidst Metaphysical Transition	2025 年 7 月	Phenomenological Realism Now and Then, Okayama University	
116	長坂真澄	Dans l'abîme de l'argument cosmologique – Schelling à travers Merleau-Ponty	2025 年 7 月	Le 40e Congrès de l'ASPLF、Universidad Autónoma de Madrid	
117	長坂真澄	Tanabe and Levinas on Meta-ontology: The Autonomy of Self-Criticism qua the Heteronomy of the Ethics of the Other	2025 年 5 月	Rethinking peace: The notion of peace in Japanese philosophy (Series of workshops, University of Tübingen – College of Fellows), University of Tübingen / Online	
118	中澤栄輔	The Development of Neuroethics in Japan: Neurointerventions and Mental Health	2025 年 9 月	Neuroethics Workshop: Theoretical and Applied Neuroethics in Asia and Beyond. Park Avenue Rochester, Singapore	
119	柿木伸之	憂鬱と叛逆 ——ベンヤミンのメランコリーの詩学	2025 年 11 月	国際シンポジウム「芸術・思想におけるメランコリーの現在」、立命館大学	仲間裕子、ハンス・ディッケル他
120	柿木伸之	未成の詩人とその死後の生——『ハインレ詩文集』を翻訳して	2025 年 12 月	ドイツ文学・思想シンポジウム、京都大学	小林哲也、田邊恵子他

121	柿木伸之	破局の後の想像力を拓く ——ベンヤミンの批評とし ての美学へ	2026 年 2 月	日本エルンスト・ブロッホ研究会第 56 回研究会特別企画「ブロッホとベンヤ ミン」、広島市文化財団コジマホール ディングス西区民文化センター	小田智敏他
122	亀井大輔	Iki and Geschlecht: Heidegger, Kuki, Derrida	2025 年 5 月	Workshop: Derrida and Japanese- Asian Philosophies, 立命館大学	
123	亀井大輔	Kuki Shūzō and Philosophical Nationalism: From the Viewpoint of Translation	2025 年 6 月	La philosophie et la question nationale, Collège International de Philosophie, フランス・オンライン	
124	亀井大輔	「いき」と「ゲシュレヒト」 ——ハイデガー、九鬼、デリ ダ	2025 年 6 月	IAJP Conference 2025、東京大学	
125	亀井大輔	デリダの終末論とシャリ エ的レヴィナス	2025 年 9 月	カトリヌ・シャリエ『無限者の痕跡』 合評会、富山大学	
126	亀井大輔	Trần Đức Thảo and Jacques Derrida: On Phenomenology and Marxism	2025 年 9 月	Workshop: Vietnam and East Asian Intellectual Currents, Fulbright University Vietnam	
127	亀井大輔	The Inheritance of Phenomenology in Derrida: on "The End of the World"	2025 年 12 月	Symposium: A Tribute to Phenomenology, 立命館大学	
128	亀井大輔	三木清『構想力の論理』に おける「発明」——デリダの 発明論と対比して	2025 年 12 月	第 3 回「日本哲学の脱構築」ワークシ ョップ、専修大学	
129	亀井大輔	ジャック・デリダとチャ ン・デューク・タオ——フッサ ール『幾何学の起源』をめ ぐって	2026 年 2 月	国際シンポジウム「二十世紀哲学にお ける唯物論的弁証法の展望 ——フラ ンスと日本、そして両者の媒介として のチャン・デューク・タオ」、立命館大学	
130	吉川孝	倫理学における現象学的 直観の意義について ——シ ュリックによるシェーラ ー批判への応答を通じて	2025 年 11 月	日本現象学会第 47 回大会、岡山大学	池田喬
131	吉川孝	日本のハードコア・ポルノ のクィアネス——『風立ち ぬ』と『お医者さんごっこ』	2025 年 12 月	京都大学映画コロキウム、京都大学	
132	黒岡佳祐	Translation and Community: Husserl, Heidegger and Derrida	2025 年 8 月	第 8 回日中哲学フォーラム「世界哲学 と古典学」、中国社会科学院	
133	黒岡佳祐	海に定位した生と他者の 歓待——カール・シュミッ ト、折口信夫、ジャック・ デリダ	2025 年 11 月	2025 東アジア沿岸都市研究国際学術 大会、福州大学	
134	黒岡佳祐	芸術が空間/世界を拓く時 ——ハイデガー・柳宗悦・ ベンヤミン	2025 年 11 月	北東アジアにおける芸術創作と人文 交流に関する国際シンポジウム	
135	小田麟太郎	あえて黙ることと過剰な 語り——ジャン＝リュッ ク・ナンシーにおける神話 の途絶とフィクション	2025 年 5 月	間文化現象学研究センター若手ワー クショップ ナンシー『無為の共同体』 の複層性、立命館大学衣笠キャンパス	
136	小田麟太郎	L'acte de la foi et le christianisme chez Jean- Luc Nancy	2025 年 10 月	若手研究者による国際ミーティング、 オンライン	
137	小田麟太郎	Kant and Nancy on the Passion of Jesus	2025 年 11 月	国際ワークショップ: ジャン＝リュッ ク・ナンシーと「ポスト宗教」の哲学、 立教大学池袋キャンパス	
138	谷 徹 Tani Toru	「こと」と現象学 Koto and Phenomenology	2025 年 12 月	香港現象学会 第 47 回大会、立命館 大学	
139	池田喬	倫理学における現象学的 直観の意義について ——シ ュリックによるシェーラ ー批判への応答を通じて	2025 年 11 月	日本現象学会 第 47 回大会、岡山大 学	吉川孝

140	池田 喬	なぜハイデガーが実践の記述において重要なのか—現象学的な質的研究の一つの可能性	2025 年 11 月	公募ワークショップ 日本現象学会 第 47 回大会、岡山大学	呉文慧、海老田大五朗、榊原哲也
141	宮原優	「弱さ」をめぐる現象学的記述について	2025 年 11 月	フェミニスト現象学研究会 神戸大学	
142	宮原優	「乳児と親の関係をことばにすること	2026年2月14日	トークセッション「親になること/をすること」とはどのようなことか 日本大学	朱雀花子、草津紀子
143	佐藤愛	愛とおぞましいものの共同体——ジジエクにおける〈母〉の抑圧と女性の式	2025 年 7 月	第 24 回ジジエク研究会、オンライン	
144	日暮雅夫	シンポジウム報告「勃興する権威主義——批判理論から見た戦後民主主義」in、北海学園大学	2025 年 11 月 8 日	唯物論研究協会第 48 回大会シンポジウム「戦後民主主義が見たもの／見てこなかったもの——記憶と黙殺の 80 年を問う」、北海学園大学	中野敏男他
145	鈴木崇志	フッサールとアンリの共同体論の分岐点	2025 年 6 月	日本ミシェル・アンリ哲学会第 17 回研究大会、同志社大学	
146	鈴木崇志	メルロ＝ポンティの「制度化」論と法現象学：ハムリックの解釈を手引きとして	2025 年 11 月	日本法哲学会 2025 年度学術大会、早稲田大学	
147	鈴木崇志	The Role of Phantasy in Husserl's Theory of Intersubjectivity	2025 年 12 月	International Symposium Kyoto 2025: A Tribute to Phenomenology、立命館大学	
148	ウェルズ恵子	女性ブルーズのヴァナキュラーな声の行方：アイダ・コックスとメンフィス・ミニーの歌詞	2025 年 11 月	早稲田大学村上春樹文学館主催 国際シンポジウム「音楽×ジェンダー平等 女性奏者の創造と挑戦—ブルース、ジャズ、ポピュラー音楽まで」	
149	三枝暁子	中世都市京都について	2026 年 3 月	総合展示第 2 室リニューアル委員会、国立歴史民俗博物館	
150	松原大介	室生犀星「虫姫日記」と「虫めづる姫君」——「命」を「見守」ること——	2026 年 3 月	中世関連文化研究会 2025 年度 3 月研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
151	佐々木梓	太平洋戦争開戦時の文学者による評論テキストを対象とした通時的・共時的分析の試み	2025 年 12 月	人文科学とコンピュータシンポジウム、九州大学伊都キャンパス	山木良輔、金村一輝
152	佐々木梓	戦時下の小林秀雄文学における中世文学受容	2026 年 3 月	中世関連文化研究会 2025 年度 3 月研究会、立命館大学衣笠キャンパス	
153	Megumi Ochi	Creating War Crimes Archives	2025年6月11日	AI for Justice	
154	Megumi Ochi	Universal Guideline on War/Core Crime Archives	2025 年 10 月	International Archives Congress 2025 Barcelona	
155	市井吉興	都市空間におけるスケートボードを「犯罪化」するポリティクスとは？：スポーツ犯罪学的試論	2025 年 8 月	日本体育・スポーツ・健康学会 第 75 回大会（日本体育大学）	
156	市井吉興	「逸脱したレジャー (Deviant Leisure)」研究が提示する課題とは？：レジャーに埋め込まれた「危害 (harm)」の把握とその超克	2026 年 3 月	日本スポーツ社会学会 第 35 回大会（日本女子大学）	
157	塩見俊一	日本におけるスケートボードの初期的展開に関する検討：第 1 次、第 2 次ブームの諸相	2025 年 8 月	日本体育・スポーツ・健康学会 第 75 回大会（日本体育大学）	
158	塩見俊一	ポスト 2020 のスケートボード文化の課題とその源泉を辿る試み：日本における草創期の諸相に注目して	2026 年 3 月	日本スポーツ社会学会 第 35 回大会（日本女子大学）	

159	村下慣一	ノルベルト・エリアスにおける「文明化」概念の再考：進化論批判をめぐる学術的評価の妥当性(5)	2025 年 6 月	日本体育社会学会第 3 回大会（東北大学）	
160	村下慣一	Preliminary Considerations for the Analysis of “Non-Western Societies” Based on the “Civilizing Process” Concept: A Critical Review	2025 年 7 月	2025 World Congress of Sociology of Sport (Seoul National University)	
161	村下慣一	エリアス学派スポーツ社会学に関する批判的考察：方法論的課題としての「非西欧」の描き方	2025 年 8 月	日本体育・スポーツ・健康学会第 75 回大会（日本体育大学）	
161	村下慣一	「文明化」概念とその課題：ノルベルト・エリアスとマックス・ヴェーバーとの対話」	2025 年 11 月	唯物論研究協会 第 48 回総会・研究大会（北海学園大学）	
162	村下慣一	ノルベルト・エリアスにおける「文明化」概念の再考：進化論批判をめぐる学術的評価の妥当性（7）	2026 年 3 月	日本スポーツ社会学会第 35 回大会（日本女子大学）	
163	三谷舜	スポーツ用具と社会の関連に着目した研究の着想と展開：『軟式ボールの社会学』より	2025 年 8 月	日本体育・スポーツ・健康学会 第 75 回大会（日本体育大学）	招待有り
164	Shun MITANI	Why Did the WBSC Invent Baseball 5?	2025 年 5 月	2025 International Conference of Sport, Leisure, and Hospitality Management 運動休閒與餐旅管理國際學術研討會 台湾・台北・国立台湾師範大学	
165	豊島誠也	大阪市大正区における 沖縄空手の流入と実践の現在	2025 年 8 月	日本体育・スポーツ・健康学会 第 75 回大会（日本体育大学）	田邊元、小木曾航平
166	平石貴士	ポーツ空間分析とインタビュー調査から見るスポーツ参加の不平等の分析：ブルデュー派混合研究法の可能性 (2)	2025 年 11 月	日本社会学会 第 98 回大会（一橋大学）	
167	Jim Ueda	An Examination of the Position of Sports in Higher Education Governance: From the Perspective of Social Deviance and Reproduction	2025 年 7 月	2025 World Congress of Sociology of Sport (Souel National University)	Kensuke EHARA, Goichi HAGIWARA, Kayoko KURITA, Katsuhiko ISHIKAWA, Kunio KONO
168	Jim Ueda	Japan's Athlete Career Development System-How Higher Education Shapes Athletes' Long-Term Careers-, Cross-Sector Seminar-Athletic Career Transition	2026 年 1 月	Taiwan National Science and Technology Council, National Taiwan University of Sports	招待講演

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	【研究カンファレンス】 再帰的な社会において「モビリティ・ジャスティス」を再考する	衣笠キャンパス	2025 年 9 月	50 名	共催：2025 年度国際共同研究促進プログラム 共同研究型
2	【研究カンファレンス】 モビリティーズ研究——新たな社会理論の生成をめざして	衣笠キャンパス	2025 年 12 月	50 名	共催：2025 年度国際共同研究促進プログラム 共同研究型

3	ATLAS Critical Tourism Studies Asia Pacific In-Between Conference 2026: Tourism and Mobilities	衣笠キャンパス	2026 年 3 月	200 名	共催：2025 年度国際共同研究促進プログラム 共同研究型
4	モビリティーズ研究会 若手研究者発表 会+ルイス・エヴァラス講演会	衣笠キャンパス	2026 年 3 月	30 名	共催：2025 年度国際共同研究促進プログラム 共同研究型
5	第 1 回「科学技術と人間・社会」研究会	衣笠キャンパス	2025 年 7 月	20 名	
6	Japanese Public Diplomacy Through Traditional Arts: A Workshop for Emerging Scholars	Ritsumeikan University, Kyoto	2025 年 10 月	20 名	
7	第 2 回「科学技術と人間・社会」研究会	衣笠キャンパス	2025 年 11 月	20 名	
8	Sci-Tech Workshop II Edition	LUISS University, Rome, Italy	2026 年 3 月	20 名	
9	下村晃平『ネオリベラリズム概念の系譜： 1834-2022』(新曜社、2025 年)版記念合評 会	朱雀キャンパス+ オンライン配信	2025 年 7 月	50 名	
10	安周永『転換期の労働政治：多様化する就 労形態と日韓労働組合の戦略』(ナカニシ ヤ出版、2025 年) 出版記念合評会	朱雀キャンパス+ オンライン配信	2025 年 7 月	50 名	
11	渡辺博明『スウェーデンの政党政治と民主 主義』(晃洋書房、2025 年) 出版記念合評 会	朱雀キャンパス+ オンライン配信	2025 年 7 月	50 名	
12	2025 年度第 1 回若手研究者支援のための 研究会	キャンパスプラザ 京都第一会議室	2025 年 8 月	10 名	
13	橋本努・金澤悠介『新しいリベラル：大規 模調査から見えてきた「隠れた多数派」』 (ちくま新書、2025 年) 出版記念合評会	オンライン配信	2025 年 12 月	50 名	
14	佐々田博教『農政トライアングルの誕生： 自己組織化する利益誘導構造 1945- 1980』(千倉書房、2025 年) 出版記念合評 会	OIC キャンパス +オンライン配信	2026 年 2 月	30 名	
15	マイケル・マン『ファシストたちの肖像： 社会的〈力〉と近代の危機』(白水社、2025 年) 出版記念研究会	オンライン配信	2026 年 2 月	60 名	
16	塚原真梨佳『戦艦大和の歴史社会学』合評 会	朱雀キャンパス	2026 年 3 月	20 名	
17	PATHOSOPHIA	立命館大学衣笠キ ャンパス	毎月第二土曜 日	10 名	
18	ラッセ・トマセン講演会「歓待—政治的 概念についての脱構築的理論化」	専修大学神田キャン パス	2025 年 6 月	20 名	脱構築研究会
19	第 3 回「日本哲学の脱構築」ワークショップ 「三木清『構想力の論理』を読む—技 術論を中心に」	専修大学生田キャン パス	2025 年 12 月	50 名	専修大学哲学会、脱構築研究会
20	国際ワークショップ「デリダと日本・東ア ジアの哲学」	立命館大学	2025 年 5 月	40 名	
21	国 際 シ ン ボ ジ ウ ム A Tribute to Phenomenology	立命館大学	2025 年 12 月	50 名	香港現象学会、日本現象学会
22	国際シンポジウム「20 世紀哲学における 唯物論的弁証法の展望—フランスと日 本、そして両者の媒介としてのチャン・デ ュク・タオ	立命館大学	2026 年 2 月	40 名	京都大学人文科学研究所
23	エマニュエル・アロア教授講演会	立命館大学	2025 年 6 月	30 名	
24	Basil Vassilicos 氏講演会	立命館大学	2025 年 7 月	20 名	
25	第 1 回東アジア間文化現象学講演会	立命館大学	2025 年 10 月	30 名	
26	Indefinite Life between Heidegger and Derrida	立命館大学	2026 年 3 月	10 名	
27	若手ワークショップ 「ナンシー『無為の 共同体』の複層性」	立命館大学	2025 年 5 月	50 名	立命館大学・人文科学研究所重点プログラム 「現代における間文化現象学の新展開」、脱構 築研究会
28	ワークショップ「うんこの哲学」	立命館大学	2026 年 3 月	50 名	

29	ナンシー・フレイザー教授講演会・企画・司会「労働の三つの顔——ジェンダー、人種、階級の秘められた繋がり」の解明」	立命館大学創思館カンファレンスルーム	2025 年 11 月	100 名	東京大学、京都大学
30	中世関連文化研究会	衣笠キャンパス	2025 年 9 月	6 名	立命館大学人文科学研究所
31	中世関連文化研究会	衣笠キャンパス	2026 年 3 月	5 名	立命館大学人文科学研究所
32	THE CRIME OF AGGRESSION: RECENT DEVELOPMENTS AND THE POLITICS OF ACCOUNTABILITY	国際平和ミュージアム	2026 年 3 月	15 名	
33	ワークショップ（書評会）三谷俊著『軟式スポーツの社会学』を読む	衣笠キャンパス	2025 年 7 月	20 名	
34	戦後 80 周年記念国際ワークショップ	衣笠キャンパス	2026 年 3 月	40 名	コンラート・アデナウアー財団

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	谷崎友紀	長岡京市文化財保存活用地域計画キックオフ講演会「江戸時代の旅と名所と乙訓」	長岡天満宮（長岡京市）	2023 年 6 月 17 日
2	谷崎友紀	せとうち観光専門職短期大学出張キャンパス「江戸時代の旅と名所と善通寺」	ZEN キューブ（善通寺市）	2023 年 8 月 26 日
3	川村仁子	記事「法は、ただのルールではなく、文化的であり社会的なもの」	『esse·sense』	2025 年 7 月 17 日
4	川村仁子	記事「先端科学技術のガバナンスについて立命館大学の川村仁子先生に聞く中で見えてきた、宇宙開発を導くルールのこれから」	『ほとんど 0 円大学』	2025 年 8 月 7 日
5	川村仁子	記事「宇宙は誰のもの」	『TANQ』	2025 年 12 月 8 日
6	川村仁子	書評、A.C.グレイリング著（道本美穂訳）『月はだれのもの？』柏書房、2025 年。	公明新聞	2025 年 7 月 21 日
7	川村仁子	共訳、マーティン・ホワイト『パワー・ポリティクス』	日本経済評論社	2026 年 1 月出版
8	美馬達哉	書評、フィリップ・アルティエール編『耐え難いもの（監獄情報グループ資料集 1）』人文書院。	週刊読書人	2025 年 10 月出版
9	美馬達哉	書評、中谷陽二『ミシェル・フーコーと狂気のゆくえ 我狂う、故に我あり』講談社。	週刊読書人	2026 年 2 月出版
10	山口達也	書評、峯川浩子編著『危機管理とグローバル・ガバナンス』芦書房、2024 年。	立命館アジア・日本研究学術年報	2025 年 8 月出版、pp.256-261.
11	小関素明	終戦 80 周年記念講演：文学者たちの「大東亜戦争」— なぜかれらは熱狂したのか—	ドナルド・キーン・センター柏崎・新潟県柏崎市	2025 年 8 月 9 日
12	寺澤優	講演：遊廓研究の最前線と解放運動が昭和史に示すもの	東広島市歴史楽会、東広島市役所会議室	2025 年 5 月
13	宮崎裕助	〔書評〕ユク・ホイ『ポストヨーロッパ』——故郷喪失時代の「近代の超克」	『日本経済新聞』	2026 年 1 月 17 日
14	宮崎裕助	〔講演〕いまここにある平和から始まる——カントとデリダの歓待論をめぐって	『生田哲学』27 号、1-12 頁、	2026 年 3 月
15	宮崎裕助	『読むことのエチカ』合評会への著者コメント	『Supplements』第 5 号、30-35 頁、	2026 年 3 月
16	郷原佳以	「オルフェウスの弁証法」	竹内芳郎著作集第四巻栞	2025 年 12 月
17	郷原佳以	「〔俗悪〕なセイレーンになること」（桂秀実『一歩前進、二歩後退』書	『群像』、講談社、2025 年 12 月号	2025 年 12 月

		評)		
18	郷原佳以	「翻訳と批評」	『ふらんす』、白水社、2025 年 10 月号	2025 年 10 月
19	郷原佳以	「私を試す猫の眼差し 猫と哲学者」	『ふらんす』、白水社、2025 年 5 月号	2025 年 5 月
20	松葉祥一	「共存存在に対する暴力としての習慣的人種差別——ヘレン・ンゴ『人種差別の習慣』書評」	『心の危機と臨床の知』（甲南大学人間科学研究所）、27 号、11-13 頁	2026 年 3 月
21	ウェルズ恵子	開けてはいけない部屋の秘密をどうする？ (1) (2)	朝日カルチャーセンター新宿教室	2025 年 7 月～8 月
22	ウェルズ恵子	基調講演「図書館が闇に光を差し向ける時：差別方時代のアメリカで自己尊厳を育てた黒人作家たち」	全国図書館大会愛媛大会（愛媛大学）	2025 年 10 月
23	ウェルズ恵子	オペレッタプログラム記事「なぜ一目惚れ？ なぜガラスの靴？ —「サンドリヨン」(シンデレラ) 物語、魅力の秘密—」	日生劇場	2025 年 11 月
24	花崎育代	日本近現代文学研究をつづけて——大岡昇平を中心に—— <退職記念講義>	衣笠キャンパス	2026 年 3 月 14 日
25	三枝暁子	講演「歴史をつむぐ共同体—京町家と西之京の祭りから考える社会的共通資本—」	オンライン+クラブヒルサイドサロン	2025 年 11 月 11 日
26	佐々木梓	『「密航のち洗濯 ととき作家」を読む 「密航」と呼ばれた移動と文一体」、コメンテーター	立命館大学衣笠キャンパス、主催：立命館大学国際言語文化研究所 世界／日本文学のモダニティ（モダニズム研究会） 後援：大阪公立大学大学院 文学研究科 人文学学際研究センター（HIRC）	2025 年 8 月
27	越智萌	平和のための国際刑事裁判所のあゆみ	公益社団法人 アムネスティ・インターナショナル日本 ひろしまグループ	2025 年 6 月 20 日
28	越智萌	戦時の「報酬」だった性暴力 被害者救済へ、光あてる国際社会の姿勢	朝日新聞	2025 年 8 月 26 日
29	三谷 舜	【書評】松島剛史著『ラグビーの世界をデザインする：ワールドラグビーの歴史とその仕事』	立命館アジア・日本研究学術年報 6(6), PP.185-188	2025 年 8 月
30	出口雅久	オンライン審理と訴訟原則に関する報告	ゲッチンゲン大学法学部	2026 年 9 月 08 日
31	出口雅久	オンライン審理と訴訟原則に関する報告	ミュンヘン大学法学部	2026 年 9 月 16 日
32	出口雅久	オンライン審理と訴訟原則に関する報告	ポーランド・ヤギニエル大学法学部	2026 年 3 月 17 日
33	出口雅久	オンライン審理と訴訟原則に関する報告	オランダ・ライデン大学法学部	2026 年 3 月 23 日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1					

7. 科学研究費助成事業（科研費）						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	遠藤英樹	ツーリズム・モビリティーズの現在・課題・可能性——地域の持続可能性を志向する研究	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
2	山本理佳	現代のヘリテージ化における観光の影響に関する研究—近代産業遺産を事例に—	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
3	川村仁子	官民パートナーシップを通じた先端科学技術ガバナンスの研究：月の資源開発を事例に	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2029 年 3 月	代表
4	間中光	ツーリズム・ジェントリフィケーションによる都市の再構築に関する研究	若手研究	2025 年 4 月	2030 年 3 月	代表

5	四本幸夫	パンデミック時代の人口減少地域の観光による持続可能なコミュニティ作りへの比較研究	基盤研究(A)	2021 年 4 月	2026 年 3 月	代表
6	五十嵐美華	先端科学・技術ガバナンスにおける地域機構の機能: アフリカ連合の宇宙政策を事例に	若手研究	2025 年 4 月	2029 年 3 月	代表
7	美馬達哉	詐病を哲学する: 医療における真理の体制とその構築	挑戦的研究 (萌芽)	2025 年 6 月	2027 年 3 月	代表
8	種田博之	HPV ワクチンの勧奨接種再開をめぐる「boundary work (境界作業)」	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
9	種田博之	薬害をめぐるコンフリクトと制度化	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	分担
10	種田博之	薬害 HIV 感染被害者支援の再編と新しい地平	基盤研究(B)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	分担
11	鎮目真人	東アジアにおける高齢期のインカム・ミックスと公的年金制度に関する研究	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	代表
12	下村晃平	ネオリベラリズムと保守主義の交差: モンペルラン協会日本人会員の歴史社会学	若手研究	2025 年 4 月	2029 年 3 月	代表
13	丸山彩	三輪家文書の研究—大正期から昭和初期の遠州地方における教育の実態	研究費活動スタート支援	2025 年 7 月	2027 年 3 月	代表
14	寺澤優	近代公娼制度成立期における風俗統制論	若手研究	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
15	山口一樹	天皇制と「死」をめぐるポリティクスとしての統帥権独立論に関する研究	若手研究	2021 年 4 月	2025 年 3 月	代表
16	伊故海 貴則	明治 10 年～20 年代の地域社会における多数決による＜近代的政治秩序＞の確立過程	若手研究	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
17	有村直輝	19～20 世紀イギリスにおける想像力論の系譜: ホワイトヘッド哲学を参照点として	若手研究	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
18	宮崎裕助	共通感覚の公共的機能の研究を基盤とした「テレパシー共同体論」の構築	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	代表
19	宮崎裕助	ジャック・デリダの脱構築思想にもとづく「歓待」の学際的・国際的研究	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	分担
20	郷原佳以	非人称性と物語理論——非コミュニケーション理論の可能性	基盤研究 (C)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	代表
21	郷原佳以	「戦間期」フランス思想における学際的ネットワークの多元的展開	基盤研究 (B)	2025 年 4 月	2029 年 3 月	分担
22	郷原佳以	レチフ・ド・ラ・ブルトヌの先駆性: その近代性と文学的後生に関する比較研究	基盤研究 (C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	分担
23	郷原佳以	20 世紀フランス思想におけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明	基盤研究 (B)	2024 年 4 月	2026 年 3 月	分担
24	川崎唯史	フェミニスト生命倫理学の方法論としての現象学の検討	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	代表
25	長坂真澄	現代独仏現象学における形而上学的転回とその哲学史的意義の研究	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
26	長坂真澄	哲学史的連関におけるレヴィナス哲学とその現代的意義の研究	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	分担
27	長坂真澄	20 世紀フランス思想におけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明	基盤研究(B)	2021 年 4 月	2026 年 3 月	分担
28	中澤栄輔	医療倫理と研究倫理における生成 AI の有効かつ安全な活用に関する実証研究	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	分担
29	中澤栄輔	未確立医療技術等の臨床応用と確立に係る国際的な包括的倫理ガバナンスに関する研究	基盤研究(A)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担
30	亀井大輔	20 世紀フランス思想におけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明	基盤研究(B)	2021 年 4 月	2026 年 3 月	代表
31	亀井大輔	ジャック・デリダの脱構築思想にもとづく「歓待」の学際的・国際的研究	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	分担
32	小田麟太郎	現代フランス哲学における「定言命法」概念の受容と変容	特別研究員奨励費	2025 年 4 月	2028 年 3 月	代表
33	佐藤愛	母子の情動に関する思想史的研究	特別研究員奨励費 (RPD)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
34	佐藤愛	スラヴォイ・ジジエク思想基盤の解明——ヘーゲル、ラカン解釈を中心に	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	分担

35	ウェルズ恵子	ラブソングの大衆歌謡化に関する研究	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2027 年 3 月	代表
36	花崎育代	大岡昇平文学の基礎的および総合的研究―創作ノート・草稿類を含む―	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
37	越智萌	中核犯罪の「被害」に関する研究―国際刑事司法により救済されるべきは誰か	若手研究	2023 年 4 月	2029 年 3 月	代表

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	小関素明	「大東亜戦争」幻想化と「戦争責任」の精神史	高梨学術奨励基金・2025 年度学術図書出版推進プログラム	2025 年	2025 年	代表
2	丹羽一晃	鶴見和子におけるアニミズムの倫理としての共育の思想の応用研究	上廣倫理財団 研究助成	2025 年 3 月	2026 年 2 月	代表
3	丹羽一晃	環境思想家としての鶴見和子：共育とアニミズムの倫理学	立教大学リサーチ・イニシアティブセンター 立教大学出版助成	2025 年	2025 年	代表
4	出口雅久	デジタル司法における裁判所の説明責任と AI による判決データベースの利活用	公益財団法人・電気通信普及財団	2026 年 3 月	2028 年 3 月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
1								